横瀬地区社会福祉協議会

地　域　福　祉　活　動　計　画

横瀬地区社会福祉協議会・大分市社会福祉協議会

ごあいさつ

我が国では、超高齢化社会・人口の減少・単身世帯の増加など様々な社会要因により、生活をする上で支援を要する人が益々増加することが懸念されております。

大分市においては、令和元年度より「みんなが主役の支え合いプラン」（第４期大分市地域福祉計画・第５次地域福祉活動計画）に基づき、地域福祉推進に向けた取り組みが推進されています。

ここ横瀬地区においても、誰もが住みなれた地域を活かし、お互いが支え合い助け合うことにより、安心していきいきと生活できるまちづくりをめざし、自治会・民生委員・児童委員・公民館等各種団体や地域住民と協力して地域福祉活動を進めています。

このたび、横瀬地区に居住している約４００名のふれあい対象者に対し大分市が先に掲げた「みんなが主役の支え合いプラン」の基本目標に沿ってアンケート調査を実施し、この調査結果に基づき横瀬地区地域福祉活動計画を策定致しました。今後は実施に向けてさらに議論を重ね、安心・安全なまちになるため横瀬地区の皆様と共に福祉活動の推進に邁進する所存でございます。

この計画が横瀬地区の福祉活動の更なる発展につながることを祈念するとともに、今回この策定にあたりご協力いただきました委員・関係者並びにご意見をいただきました皆様に感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

横瀬地区社会福祉協議会
会長　　川口　澄雄

目　次

第１章　はじめに　1

（1）計画策定の背景　1
（2）大分市社会福祉協議会とは　1
（3）校（地）区社会福祉協議会とは　1

第2章　横瀬地区について　2

（1）横瀬地区の概要　2
（2）校（地）区社会福祉協議会について　2
（3）人口推移　2
（4）ふれあい活動（小地域福祉ネットワーク活動）の現状　3
（5）高齢者サロンについて　5
（6）老人会について　6

第3章　ふれあい対象者に関する実態調査　7

基本目標1：「地域のつながりをつくる」に関する設問　8
基本目標2：「地域で支え合う体制をつくる」に関する設問　10
基本目標3：「地域課題を解決できる体制をつくる」に関する設問　12
基本目標4：「安心・安全をつくる」に関する設問　16

第4章　横瀬地区の活動計画と策定までのプロセス　17

（1）目標と具体的取り組み　17
（2）計画策定メンバー　21
（3）実施経過　22

第5章　資料編　23

（1）実態調査票　23
（2）実態調査集計結果　26

第１章　はじめに

（1）計画策定の背景

横瀬地区は、大分市の西端に位置し、大分川右岸に拓けた昔ながらの田園地域と、南を流れる七瀬川との間の丘陵地を開発・造成された２つの郊外型大型新興住宅団地によって構成されています。昭和５２年に富士見が丘団地造成による人口増加に伴い横瀬小学校が植田小学校から分離、昭和６３年には緑が丘団地造成による人口増加に伴い横瀬西小学校が開校しました。これにより、横瀬小学校と横瀬西小学校の２つの区域をあわせて横瀬校区として、植田校区から分離しました。

時代の変遷とともに、地域の様子や人と人との関わり方も少しずつ変わっていますが、今も昔も地域を支えてきたのは、地域に対する愛情と人と人とのつながりです。

私たちは、先輩たちが守り育ててきた地域の絆を、さらに太く育て次の子どもたちの世代に引き継いでいくため、今回、大分市社会福祉協議会とともに、「横瀬地区地域福祉活動計画」を策定いたしました。

誰もが住みたくなる町、いつまでも住みたい町、横瀬地区を目指してまいります。

（2）大分市社会福祉協議会とは

社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条に規定された「地域福祉の推進を目的とした団体」で、民間組織としての自主性と広く住民や社会福祉関係者に支えられた公共性という２つの側面をあわせもった、民間の非営利組織です。社協は、地域の中の課題の把握に努め、組織構成員とともに考え、協力して解決を図ることにより、住民全体の地域福祉の向上を目指しています。

（3）校（地）区社会福祉協議会とは

小学校区や中学校区等を基本に、自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、子ども会、校区内のボランティア等の地域住民で組織されている団体です。大分市社会福祉協議会との連携のもと、市内に 45 の校（地）区社会福祉協議会が組織されており、各地域の特性を考慮した個性ある自主的な福祉活動〔ふれあい活動（小地域福祉ネットワーク活動）や、校区単位での子育て支援や地域住民の交流行事など〕を展開しています。

第2章　横瀬地区について

（1）横瀬地区の概要

◇横瀬地区は、大分市の西端に位置し、大分川右岸に拓けた昔ながらの田園地域と、南を流れる七瀬川との間の丘陵地を開発・造成された２つの郊外型大型新興住宅団地によって構成されています。

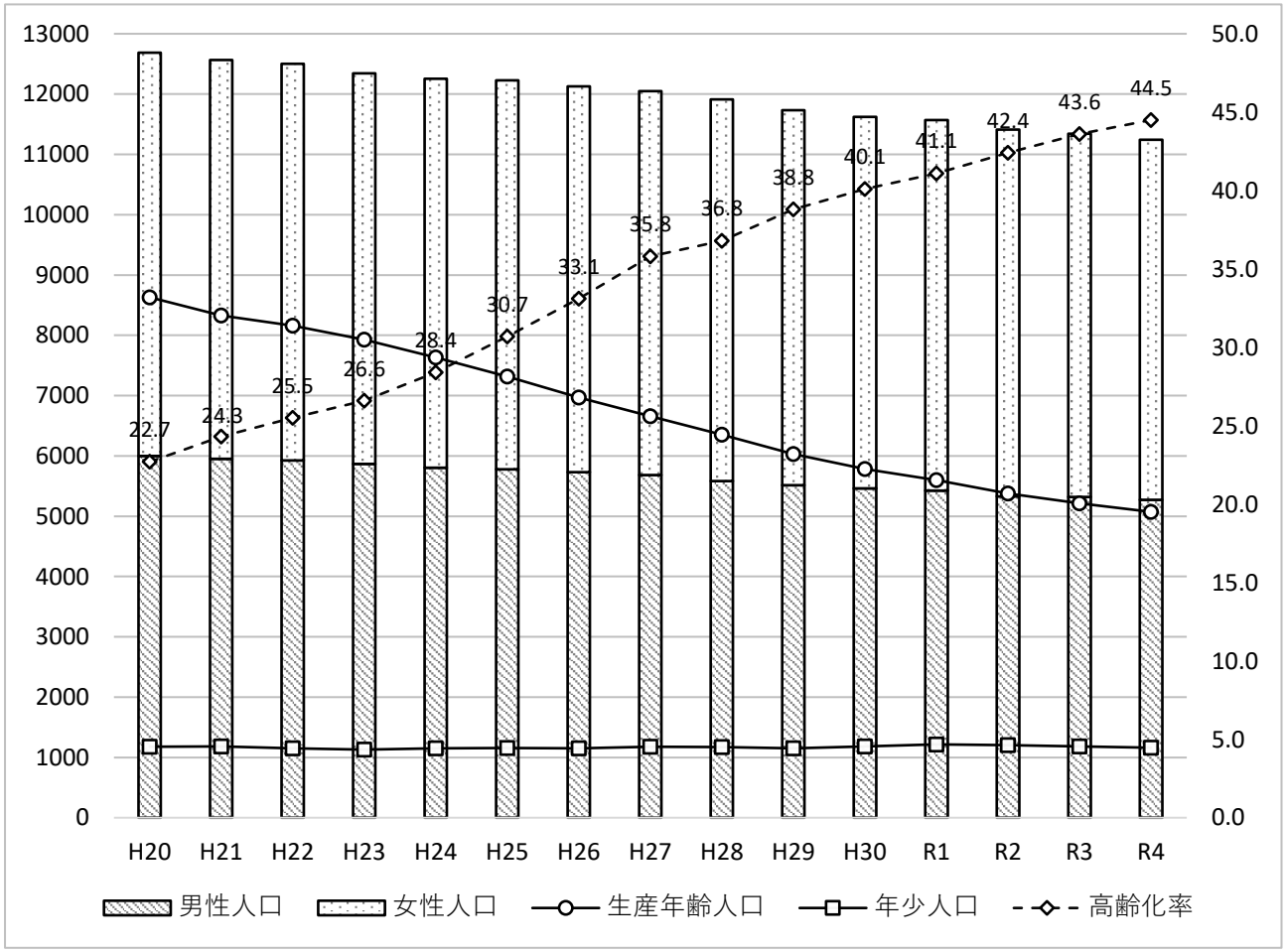
◇15 の自治会区と 22 の民生委員・児童委員区、2 名の主任児童委員、ボランティア団体等と連携し、「地域福祉の共助の核」として様々な事業に取り組んでいます。

（2）校（地）区社会福祉協議会について

◇平成元年に設立されました。

（3）人口推移

◇性別人口・生産年齢人口・年少人口・高齢化率の推移



資料：大分市住民基本台帳人口（各年代 4 月時点）

（4）ふれあい活動（小地域福祉ネットワーク活動）の現状

①ふれあい対象者　447 人　　④緊急連絡先のない対象者　6 人

②ふれあい協力者　306 人　　⑤協力者・緊急連絡先が共にない対象者　3 人

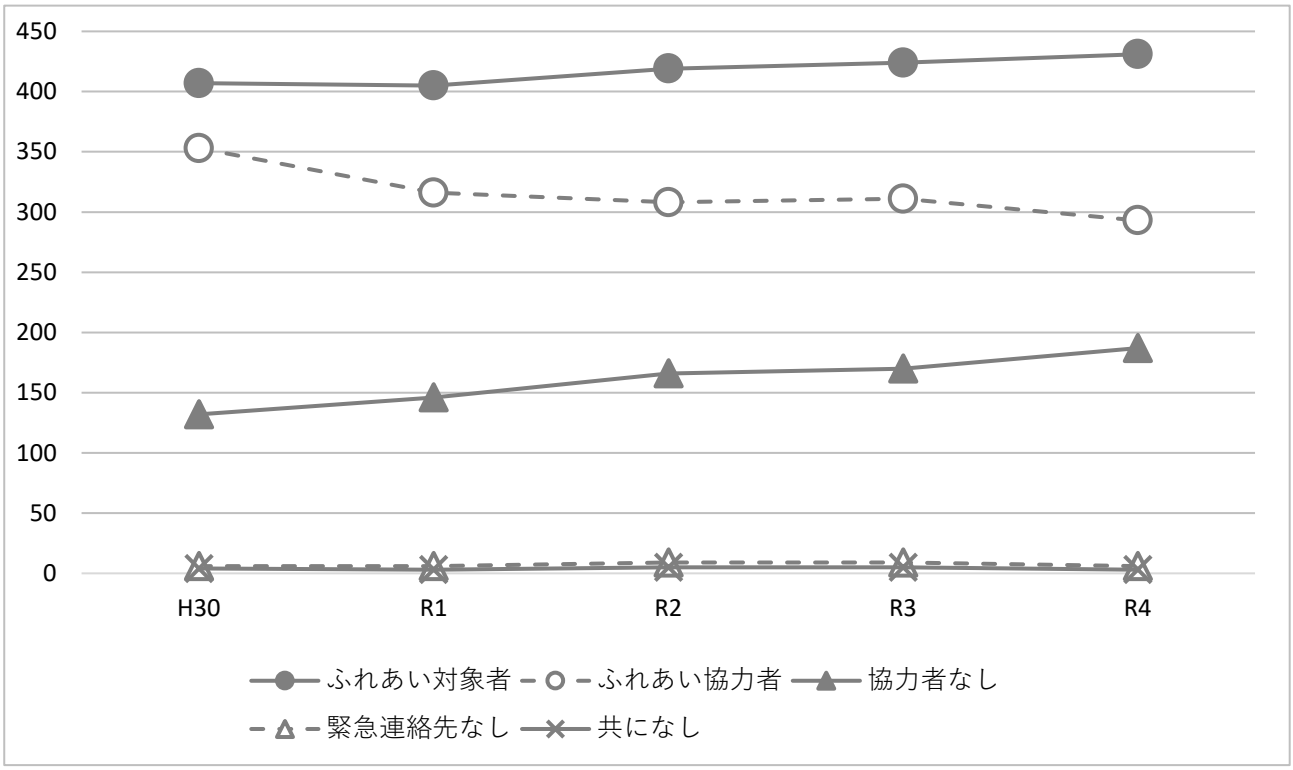
③協力者のいない対象者　193 人　　（令和 4 年 12 月 1 日現在）

番号	自治会名	自治会長	①	②	③	④	⑤	番号	民生委員担当区	民生委員	①	②	③	④	⑤
1	下横瀬	池邉　保宏	15	13	3	0	0	1	下横瀬	佐藤　直恵	15	13	3	0	0
2	上横瀬	工藤　洋助	9	4	5	0	0	2	上横瀬、鬼崎	櫻井　勝	14	6	8	0	0
3	鬼崎	利光　正弘	5	2	3	0	0								
4	富士見が丘東１丁目	内村　隆志	5	7	1	0	0	3	富士見が丘東1丁目7番～21番	渡邉　明彦	5	7	1	0	0
5	富士見が丘東２丁目	秦　一郎	46	10	33	0	0	4	富士見が丘東1丁目1番～6番 富士見が丘東2丁目18番～27番	秦　由紀子	24	5	15	0	0
								5	富士見が丘東2丁目1番～17番	江頭　和子	22	5	18	0	0
6	富士見が丘東３丁目	宮﨑　和則	39	18	26	1	0	6	富士見が丘東3丁目1～14番	椎原　美登里	26	11	18	0	0
								7	富士見が丘東3丁目15～28番	高田　かず子	14	7	9	1	0
7	富士見が丘東４丁目	椛田　健治	61	61	14	0	0	8	富士見が丘東4丁目１～11番	和田　正子	34	32	7	0	0
								9	富士見が丘東4丁目12～28番	山下　幹夫	28	31	7	0	0
8	富士見が丘東５丁目	今村　菜樹夫	17	10	8	1	1	10	富士見が丘東5丁目	西元　衣子	17	10	8	1	1
9	富士見が丘西１丁目	宮本　侑親	21	15	8	0	0	11	富士見が丘西1丁目1番～15番	佐藤　孝二	7	7	1	0	0
								12	富士見が丘西1丁目16番～26番	生野　佳子	12	8	5	0	0
10	富士見が丘西２丁目	篠田　良行	65	56	15	2	0	13	富士見が丘西2丁目1番～11番	佐藤　珠美江	31	29	7	0	0
								14	富士見が丘西2丁目12番～23番	甲斐　将治	34	27	8	2	0
11	富士見が丘西３丁目	品川　晴美	45	42	15	0	0	15	富士見が丘西3丁目2、3番、16～37番	石黒　晃	25	28	8	0	0
								16	富士見が丘西3丁目4～15番	小山　興一	21	14	8	0	0
12	富士見が丘西４丁目	中浦　力	17	15	9	0	0	17	富士見が丘西4丁目	橋本　恵美子	17	15	9	0	0
13	緑が丘一	那須　千鶴	36	25	14	2	2	18	緑が丘1丁目（西・東区）	伊藤　章代	17	4	13	2	2
								19	緑が丘2丁目（西・東区）	藤川　勇二	18	19	1	0	0
14	緑が丘二	村田　誠治	27	14	16	0	0	20	緑が丘3丁目（北1区） 4丁目（東区）	後藤　英雄	27	14	16	0	0
15	緑が丘三	川口　澄雄	39	18	23	0	0	21	緑が丘4丁目(西、南区)	大塚　恭子	19	3	17	0	0
								22	緑が丘5丁目（西、東区）	吉武　クニ子	20	15	6	0	0

横瀬地区のふれあい対象者推移

（令和４年４月現在）

横瀬地区	H30	R1	R2	R3	R4
ふれあい対象者	407	405	419	424	431
ふれあい協力者	353	316	308	311	293
協力者なし	132	146	166	170	187
緊急連絡先なし	6	6	9	9	6
共になし	4	3	5	5	3



～ふれあい活動（小地域福祉ネットワーク活動）とは～

「ふれあい協力者」が、日常生活の中で、「ふれあい対象者」への「見守り」や「声かけ」を行い、様々な変化に気づき自治会長・民生委員などにつなげ、地域での見守りあい・話し合い・助け合いの仕組みを構築する活動です。

「ふれあい対象者」：対象者の条件は特にありませんが、支援を要するひとり暮らし高齢者や障がい者、ひとり親世帯等で、本人が活動に同意された方

「ふれあい協力者」：ふれあい対象者に対し、日常的に「見守り」「声かけ」をしていただける近隣住民の方

「緊急連絡先」　：ふれあい対象者の緊急時（事故や急病など）の連絡先で、原則ふれあい対象者の身内の方にお願いしています

(5)高齢者サロンについて

横瀬地区内にある高齢者サロンは 3 ヶ所です。

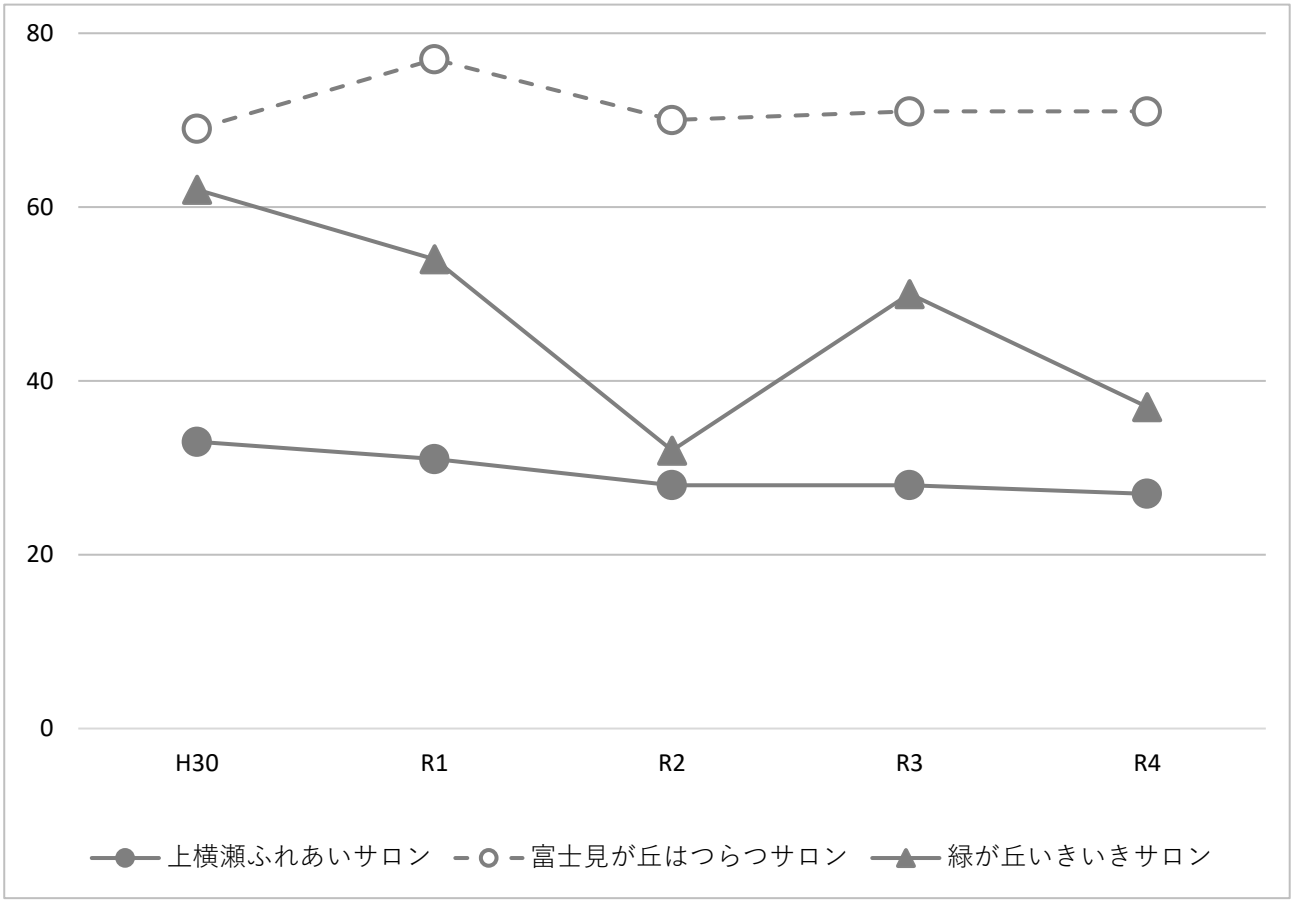
（令和 4 年 4 月現在）

	自治会名	サロン名	開催場所	年間開催数	参加者数	登録日
1	上横瀬	上横瀬ふれあいサロン	上横瀬自治区公民館	45	27	H14.5.14
2	富士見が丘東一、二、三、四、五、 西一、二、三、四丁目	富士見が丘はつらつサロン	富士見ヶ丘公民館	19	71	H18.7.28
3	緑が丘一、二、三	緑が丘いきいきサロン	緑が丘自治中央公民館	12	37	H18.6.15

横瀬地区での高齢者サロン参加者の推移

	自治会名	サロン名	H30	R1	R2	R3	R4
1	上横瀬	上横瀬ふれあいサロン	33	31	28	28	27
2	富士見が丘東一、二、三、四、五、 西一、二、三、四丁目	富士見が丘はつらつサロン	69	77	70	71	71
3	緑が丘一、二、三	緑が丘いきいきサロン	62	54	32	50	37

横瀬地区での高齢者サロン参加者の推移の図



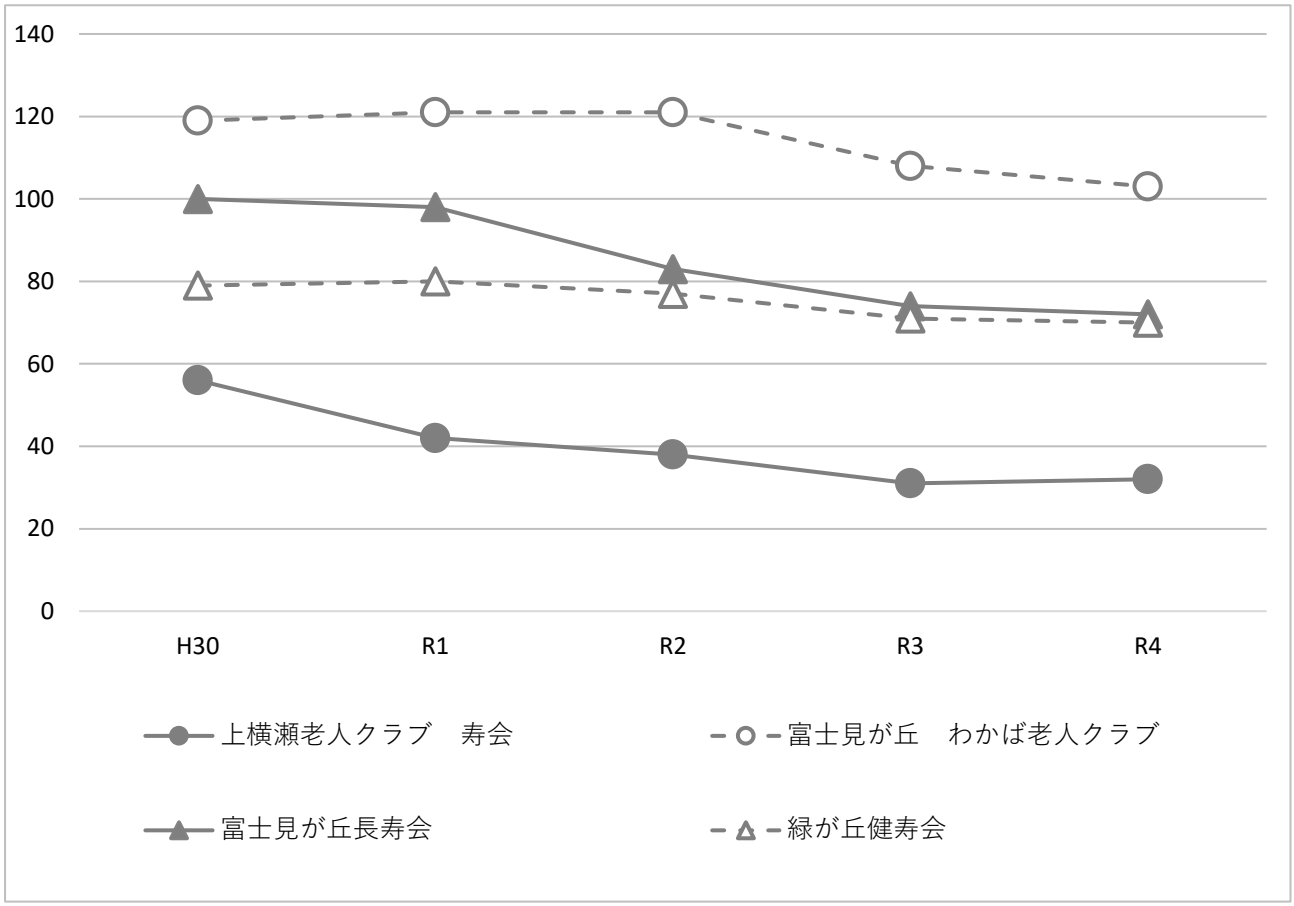
(6)老人会について

横瀬地区では、大分市老人クラブ連合会に加入している老人クラブは 4 ヶ所あります。

（令和 4 年 4 月現在）

老人クラブの参加者推移

	自治区名	老人クラブ名	H30	R1	R2	R3	R4
1	上横瀬	上横瀬老人クラブ　寿会	56	42	38	31	32
2	富士見が丘	富士見が丘　わかば老人クラブ	119	121	121	108	103
3	富士見が丘	富士見が丘長寿会	100	98	83	74	72
4	緑が丘	緑が丘健寿会	79	80	77	71	70



第3章　ふれあい対象者に関する実態調査

本計画を策定するにあたり、横瀬地区内のふれあい対象者の生活の実態や地域福祉に関する意識を把握するため、実態調査を実施しました。

実施期間	令和 4 年 5 月 21 日～令和 4 年 7 月 16 日
対　象	横瀬地区内のふれあい対象者　398 名 （令和 4 年 5 月 21 日現在の対象者数）
回答者数	385 名
回答率	97%
調査協力者	横瀬地区民生委員の方々

大分市社会福祉協議会では、みんなが主役のささえあいプラン（大分市地域福祉計画、大分市地域福祉活動計画）に基づいて、地域福祉の推進に取り組んでいますが、その基本目標として、「地域のつながりをつくる」「地域で支え合う体制をつくる」「地域課題を解決できる体制をつくる」「安心・安全をつくる」をかかげています。

今回の実態調査では、この 4 つの基本目標に沿って、アンケートの設問を設定いたしました。

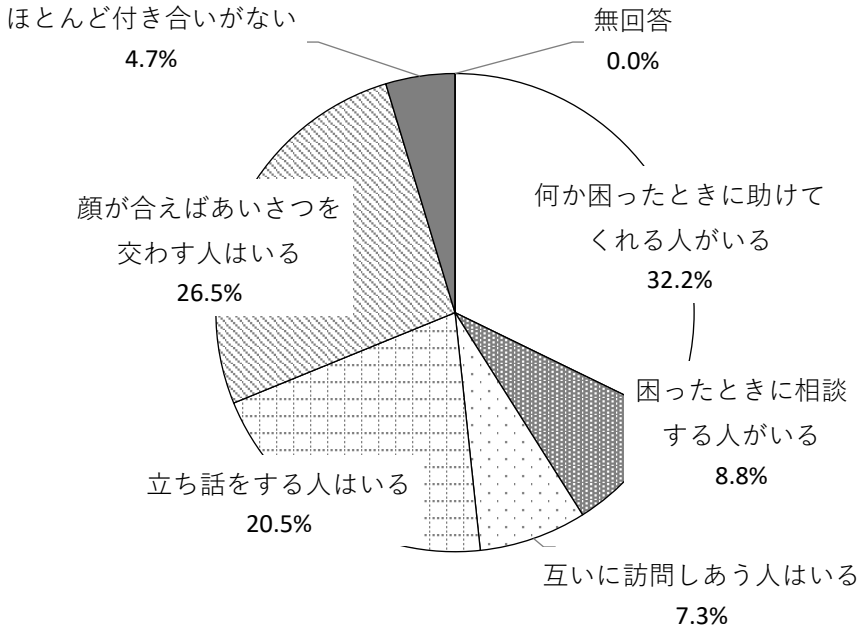
基本目標ごとの調査結果の概要は次のとおりです。

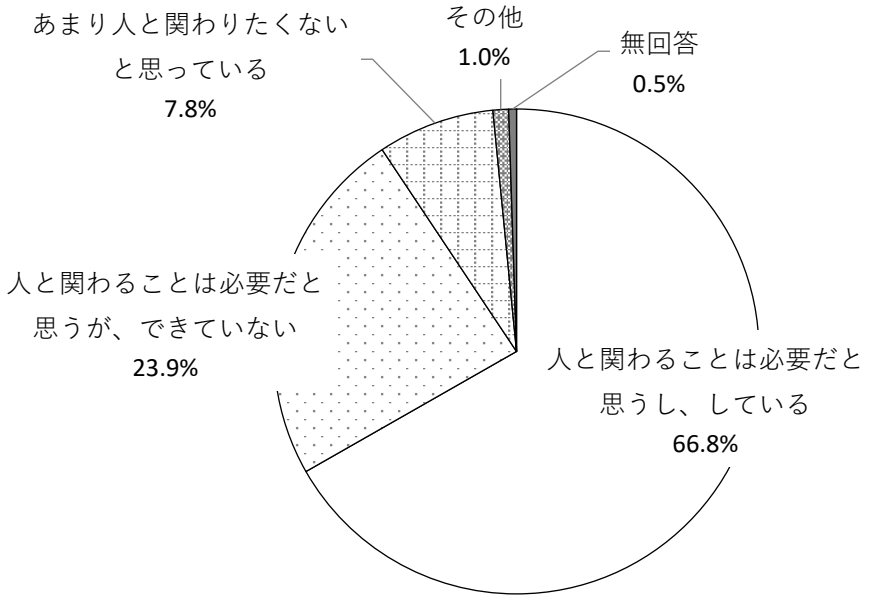
基本目標1:「地域のつながりをつくる」に関する設問

近所づきあいの程度・考え方(問 15・16)

近所づきあいの程度については、「何か困ったときに助けてくれる人がいる」が 32.2%と最も高く、次いで、「顔が合えばあいさつを交わす人はいる」が 26.5%、「立ち話をする人はいる」が 20.5%となっている。なお、「ほとんど付き合いがない」は 4.7%となっている。

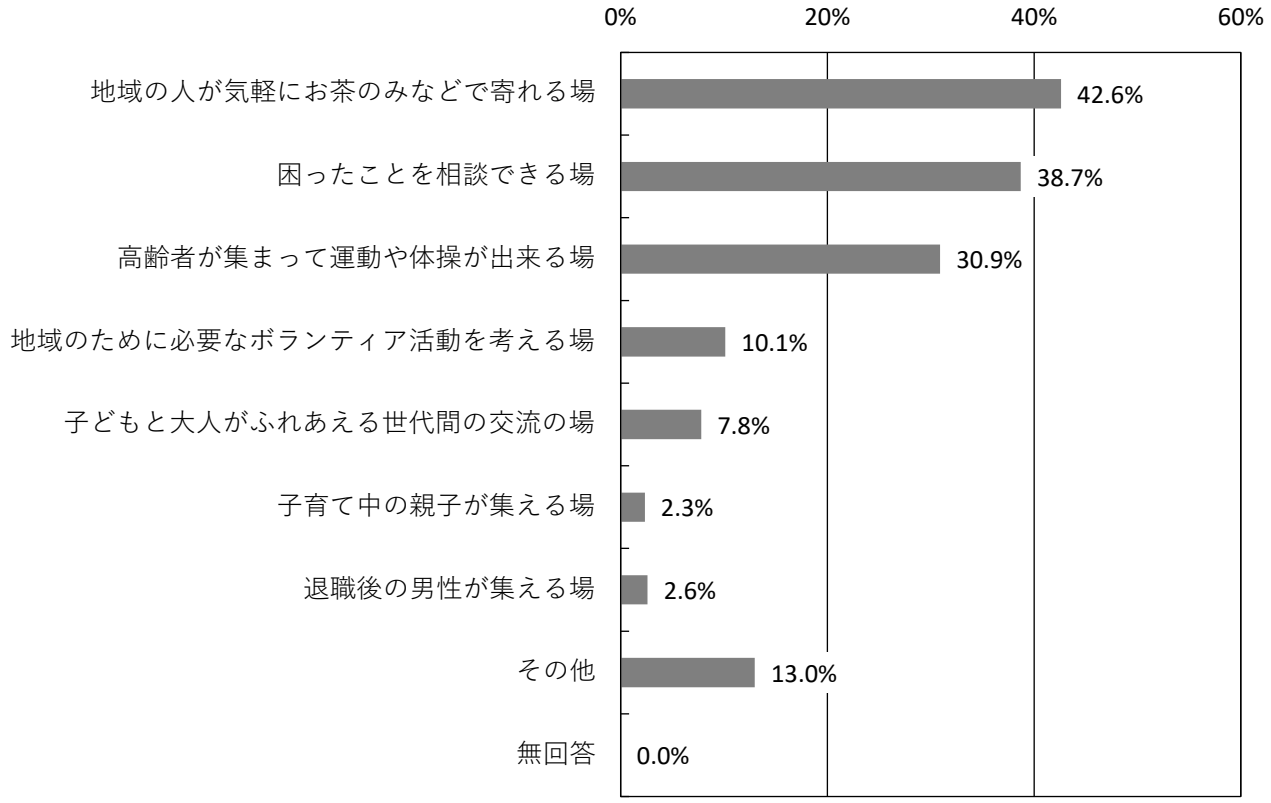
近所づきあいの考え方については、「人と関わることは必要だと思うし、している」が 66.8%と最も高く、次いで、「人と関わることは必要だと思うが、できていない」が 23.9%となっている。なお、「あまり人と関わりたくないと思っている」は 7.8%となっている。





必要と思われる≪地域住民がつながる場≫（問 17）

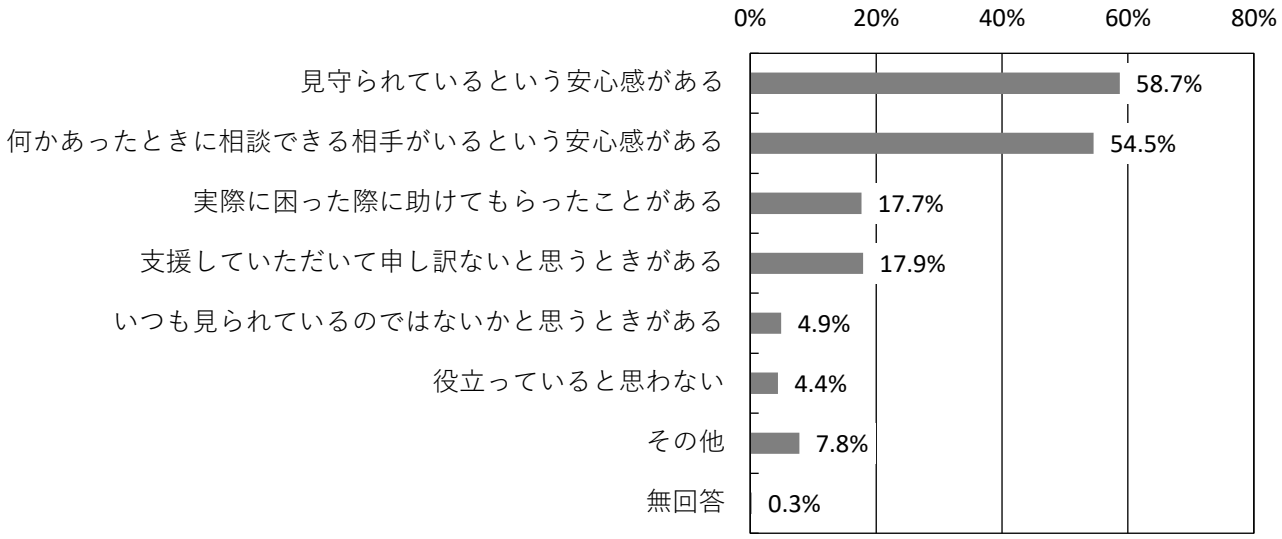
必要と思われる≪地域住民がつながる場≫については、「地域の人が気軽にお茶のみなどで寄れる場」が 42.6%と最も高く、次いで、「困ったことを相談できる場」が 38.7%、「高齢者が集まって運動や体操が出来る場」が 30.9%となっている。



基本目標2:「地域で支え合う体制をつくる」に関する設問

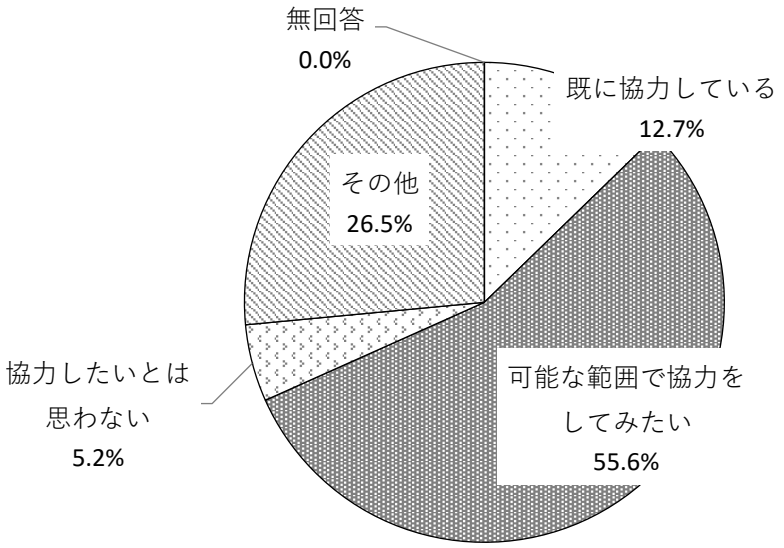
「ふれあい活動」で感じること(問 19)

「ふれあい活動」で感じることについては、「見守られているという安心感がある」が 58.7%と最も高く、次いで、「何かあったときに相談できる相手がいるという安心感がある」が 54.5%となっている。



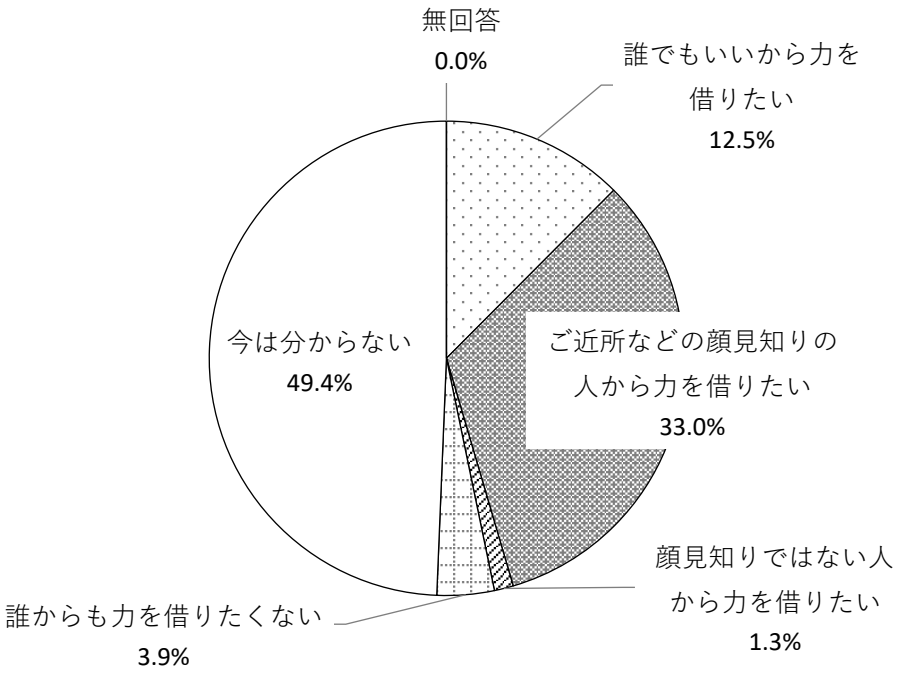
地域の行事や活動に協力してみたいと思うか(問 20)

地域の行事や活動に協力してみたいと思うかについては、「既に協力している」が 12.7%、「可能な範囲で協力をしてみたい」が 55.6%、「協力したいとは思わない」が 5.2%、「その他」が 26.5%となっている。



日常生活のお手伝いに力を借りたいか（問 10）

日常生活のお手伝いに力を借りたいかについては、「誰でもいいから力を借りたい」と答える方よりも、「ご近所などの顔見知りの人から力を借りたい」と答える方が多い傾向にある。



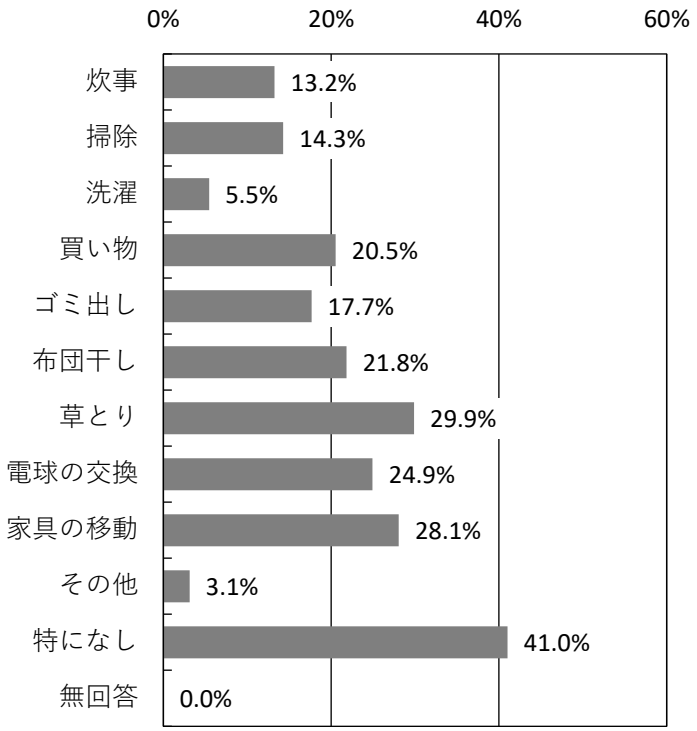
基本目標3:「地域課題を解決できる体制をつくる」に関する設問

日常の困りごと(問 7)

日常の困りごとについては、「草とり」が 29.9%と最も高く、次いで、「家具の移動」が 28.1%、「電球の交換」が 24.9%となっている。なお、「特になし」は 41.0%となっている。

(N=385)

	回答数	割合
炊事	51	13.2%
掃除	55	14.3%
洗濯	21	5.5%
買い物	79	20.5%
ゴミ出し	68	17.7%
布団干し	84	21.8%
草とり	115	29.9%
電球の交換	96	24.9%
家具の移動	108	28.1%
その他	12	3.1%
特になし	158	41.0%
無回答	0	0.0%

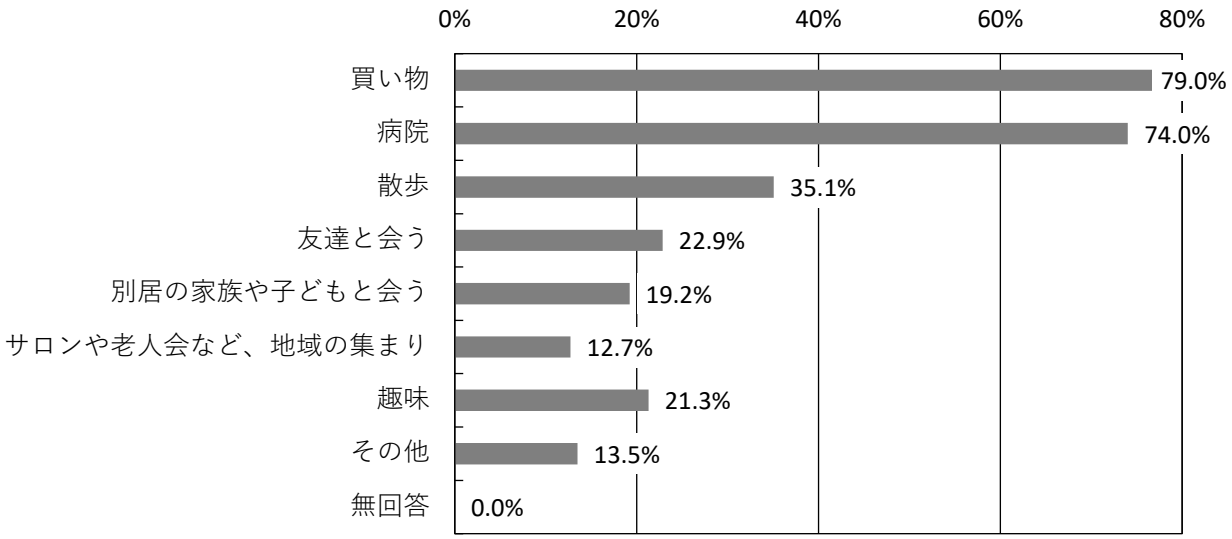


外出の理由(問 11)

外出の理由については、「買い物」が 79.0%と最も高く、次いで、「病院」が 74.0%、「散歩」が 35.1%となっている。

(N=385)

	回答数	割合
買い物	304	79.0%
病院	285	74.0%
散歩	135	35.1%
友達と会う	88	22.9%
別居の家族や子どもと会う	74	19.2%
サロンや老人会など、地域の集まり	49	12.7%
趣味	82	21.3%
その他	52	13.5%
無回答	0	0.0%

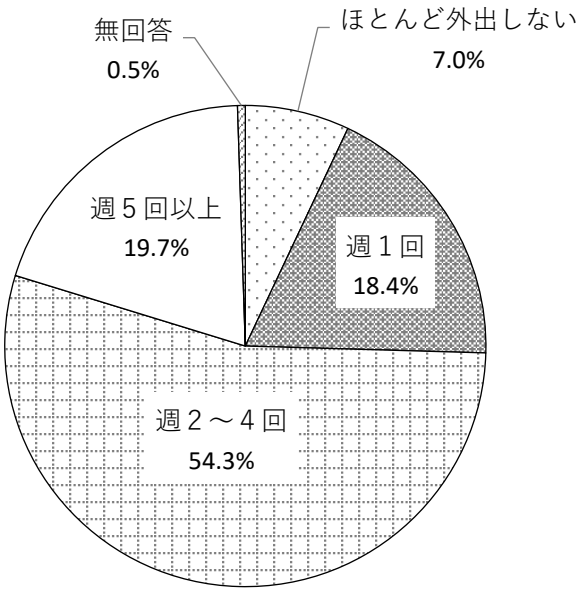

0%
20%
40%
60%
80%
買い物
79.0%
病院
74.0%
散歩
35.1%
友達と会う
22.9%
別居の家族や子どもと会う
19.2%
サロンや老人会など、地域の集まり
12.7%
趣味
21.3%
その他
13.5%
無回答
0.0%

外出の頻度（問 12）

外出の頻度については、「週 2～4 回」が 54.3%と最も高く、次いで、「週 5 回以上」が 19.7%、「週 1 回」が 18.4%となっている。なお、「ほとんど外出しない」は 7.0%となっている。

（N=385）

	回答数	割合
ほとんど外出しない	27	7.0%
週 1 回	71	18.4%
週 2 ～ 4 回	209	54.3%
週 5 回以上	76	19.7%
無回答	2	0.5%

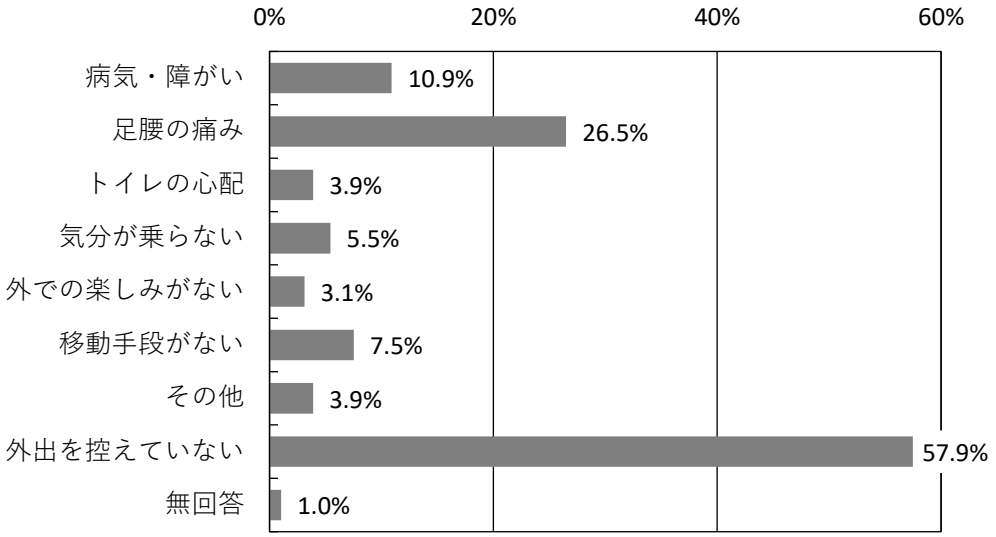


外出を控える理由（問 13）

外出を控える理由については、「足腰の痛み」が 26.5%と最も高く、次いで、「病気・障がい」が 10.9%、「移動手段がない」が 7.5%となっている。なお、「外出を控えていない」は 57.9%となっている。

（N=385）

	回答数	割合
病気・障がい	42	10.9%
足腰の痛み	102	26.5%
トイレの心配	15	3.9%
気分が乗らない	21	5.5%
外での楽しみがない	12	3.1%
移動手段がない	29	7.5%
その他	15	3.9%
外出を控えていない	223	57.9%
無回答	4	1.0%

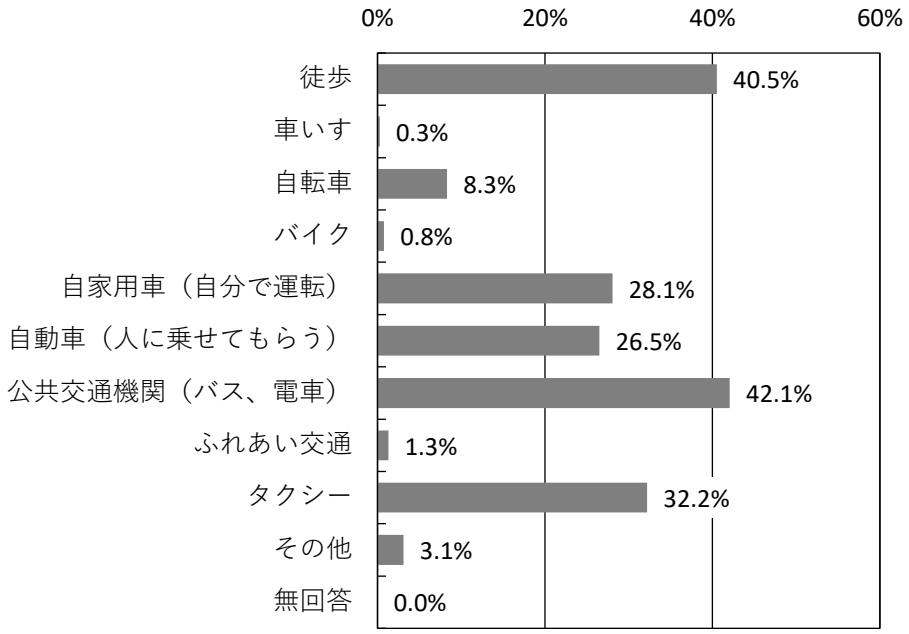


主な外出の手段(問 14)

主な外出の手段については、「公共交通機関（バス、電車)」が 42.1%と最も高く、次いで、「徒歩」が 40.5%、「タクシー」が 32.2%となっている。

（N=385）

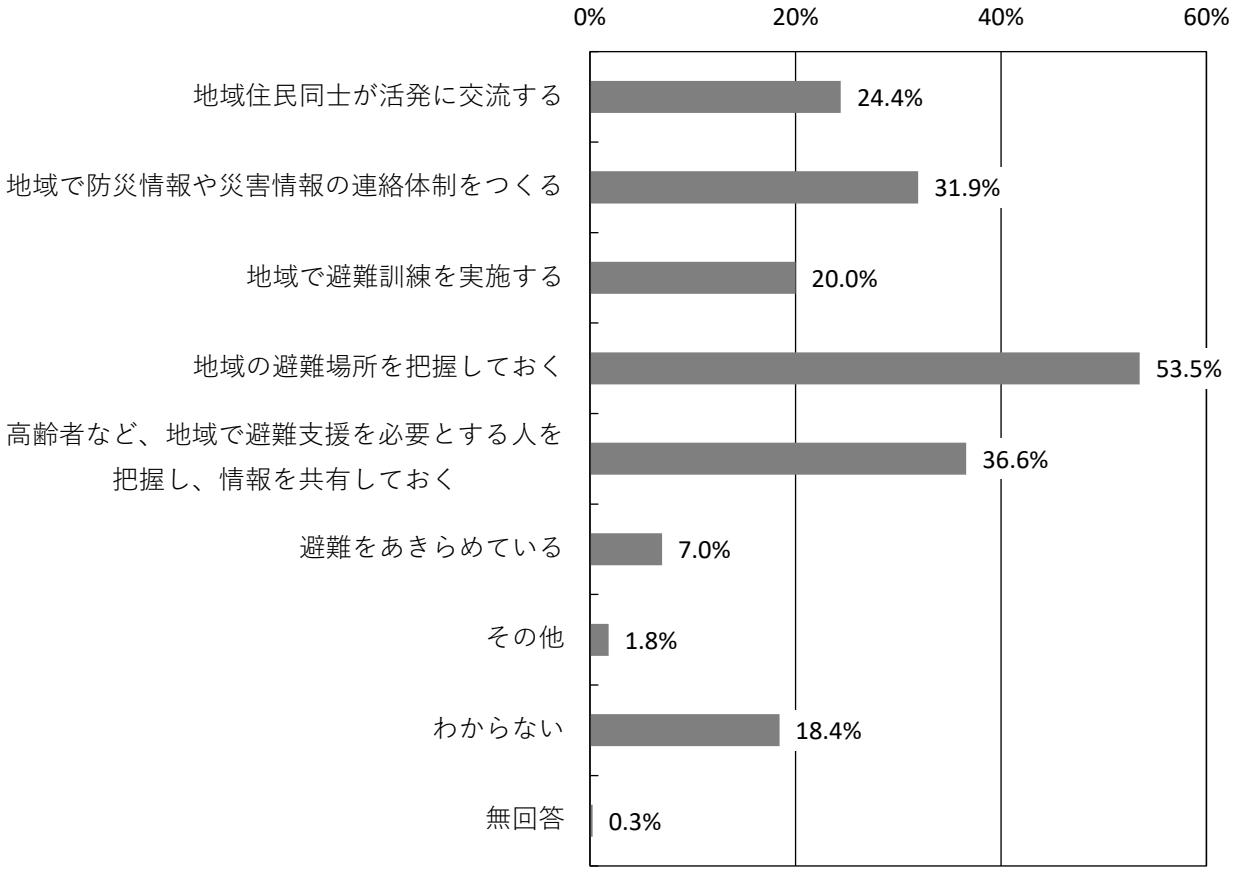
	回答数	割合
徒歩	156	40.5%
車いす	1	0.3%
自転車	32	8.3%
バイク	3	0.8%
自家用車（自分で運転）	108	28.1%
自動車（人に乗せてもらう）	102	26.5%
公共交通機関（バス、電車）	162	42.1%
ふれあい交通	5	1.3%
タクシー	124	32.2%
その他	12	3.1%
無回答	0	0.0%



基本目標4:「安心・安全をつくる」に関する設問

災害に備えた地域ぐるみの準備とは（問 18）

災害に備えた地域ぐるみの準備については、「地域の避難場所を把握しておく」が 53.5%と最も高く、次いで、「高齢者など、地域で避難支援を必要とする人を把握し、情報を共有しておく」が 36.6%、「地域で防災情報や災害情報の連絡体制をつくる」が 31.9%となっている。なお、「避難をあきらめている」は 7.0%、「わからない」は 18.4%となっている。



第4章　横瀬地区の活動計画と策定までのプロセス

（1）目標と具体的取り組み

実態調査や話し合いから出た意見をふまえ、以下の取り組みを考えました。

横瀬地区の目標１

軽微な困りごとに対応する体制を作ります。

ふれあい対象者に対して行った実態調査の結果から、ゴミ出しや高い所のものが取れないなど「生活のしづらさ」を感じている人が一定数いることが分かり、今後もそういった問題を抱える人が増えていく事が予測されます。そこで、生活をする上での軽微な困りごとに対応できる体制づくりを進めていきます。

活動の方向性（具体的取り組み）

●支援の仕組みの検討
●他校区の活動や取組に関する勉強会の実施
●日常の困りごとの把握、共有

策定までのプロセス

≪「話し合い」の場で出た意見≫

～現状・課題～

・ゴミ出しで困っている対象者がいる。
・それぞれの地区で特性があるので、横瀬地区内の全ての地区で全く同じことが出来るかどうかは心配。
・生活支援のための体制づくりは、別組織を立てないと難しい。主体的にしたい人がいれば出来ると思うが、いない場合は難しい。
・緑が丘の Be 助っ人は、活動は多くないが、いずれ必要になるのではと思い、土台づくりを進めている。
・民生委員の見守りだけでは、必要な支援が届かない部分がある。
・対象者から困りごとを聞くのは民生委員。誰につなぐかと言ったら自治会に相談するしかない。
・地区の困りごとは自治会に来る。専門的な知識がないので、自治会から市役所へ聞いて、対象者へつなぐことしかできない。

～提案・対応策～

・軽微な困りごとへの対応は、他の団体が受けないような簡単な部分の支援だけでいいと思う。
・それぞれの地域でしていることを持ち寄り、できることを検討することが必要ではないか。
・各地域でしている活動を見直し、参考にして、その活動を全体で拡充していくのはどうか。
・自分の地区の活動をまとめて共有することはできる。Be 助っ人は、相談を受けてつなげる役もしている。どこも受けてくれないようなちょっとした困りごとの対応はできていると思う。
・軽微な困りごとへの対応は自治区単位で実施して、センター機能を地区社協が持つのはどうか。
・地域の実情に応じて、地区社協が地域の後方支援（保険加入等）をすることは出来ると思う。
・横瀬地区の中でも、近所付き合いの力に差はあると思うが、役員やボランティアが一生懸命がんばらなくても、ご近所同士で協力し合っていけるような地域づくりも必要だと思う。
・困りごとを受けたとき、どこにつなげば良いか、明確になると有難い。

横瀬地区社協の目標２

誰もが参加しやすい多様な場づくりを進めます。

昨今、地域での高齢者の引きこもりや近隣住民同士の関係の希薄化など様々な社会問題が増えています。しかし、人と人とのつながりは生活をしていく中でなくてはならないものです。そこで、サロン活動の拡充や新たな集いの場を作り、誰もが参加しやすい場づくりを進めていきます。

活動の方向性（具体的取り組み）

●地域住民の交流の場を増やしていく
●どのような集いの場にするのか検討、実施
●見守り活動を通じたふれあいサロンの参加者を増やす取り組みの実施
●地区社協として既存のサロンの支援（広報や活動の助言など）

策定までのプロセス

≪「話し合い」の場で出た意見≫

～現状・課題～

・サロンは女性が多いので、女性が参加しやすい内容に偏りぎみになる。そうなると男性は来ない。
・男性の引きこもりが問題。男性の一人暮らしをどうやって孤独死させないか苦労している。
・男性は活発に活動する人と引きこもってしまう人と両極端。
・若いが一人暮らしで引きこもり。ゴミ屋敷のようになっている。昼夜逆転、大声を出す方もいる。
・行事内容が魅力的なものであれば出てくる人もいる。サロンでよく集まるのは食事が出るとき。
・行事の内容によって向き不向きや好き嫌いがある。

～提案・対応策～

・大分市地域ふれあいサロンとは別で、誰もが参加しやすいような単発の講習会を開いてもいいかもしれない。
・地域で頑張っている男性もいる。男性が活躍しやすい活動をしていきたい。
・男性が参加しやすい内容が増えればサロンも増えてくると思う。
・野菜作り教室など、役割を与えれば男性も参加しやすいのではないか。
・既存のサロン活動を充実させて、参加しやすい場にしていけばよいのではないか。
・老人会や男の料理教室など、自主的な集まりに焦点を当てていくことも必要だと思う。
・行事内容についての情報があればサロンは運営しやすい。
・自治会の中でサークルや同好会のようなものをいくつか作れば、これなら行けるかもという人が出てくるのではないか。参加してくれる人を １ 人でも作ると団地の中で顔見知りや横のつながりができる。それが少しずつ広がって、他の活動にも参加してみようかという形になると思う。

横瀬地区社協の目標３

地区社協活動の担い手を増やします。

地区社協活動を継続して行っていくためには、活動に協力してくれる人材が不可欠です。

現在、担い手の高齢化が進んでいることもあり、新たな担い手を増やすために、より多くの住民に地区社協活動に協力してもらえるための取り組みを行います。

活動の方向性（具体的取り組み）

●新たな担い手に協力してほしい活動及び活動内容の検討

●新たな担い手の発掘・育成方法の検討、実施

●社協活動の広報の方法の検討・実施

策定までのプロセス

≪「話し合い」の場で出た意見≫

～現状・課題～

・若い人がいても、自治会活動に協力してくれない。
・ボランティアメンバーも高齢化し、新しいメンバーが入ってこない。
・役員の固定化・高齢化が課題となっている。どんな風にしたら次の役員に繋がるのか。
・若い人と役員をしている人との結びつき、繋がりが難しい。
・若い人と高齢者をどういう風に結びつけて、地域を活性化させていくかが課題。
・地域活動者を充て職にすると、担い手の人数が増えない。
・良い人がいても仕事が忙しいので新しい人が出てこない。
・持ち回り制だと活動が分かってきたところで人が変わってしまう。
・社協が何をしているのか分からない人が多い。

～提案・対応策～

・それぞれの地域、それぞれの立場で、地域課題を抱えながら活動している。
　５年後、10 年後、より深刻な状況になることを見越して、計画を策定する必要がある。
・社協がどんなことをしているのか見える化を図らないといけない。
・ボランティアは各自治区から 1～2 人挙げてもらっている。具体的な声掛けで人を増やす方法が良いかもしれない。
・自治区内に福祉推進員を設置していくのも良い。
・社協がしていることに関心を持ってもらうことが前提だと思う。
・役職に対する具体的な役割を考えていく必要がある。

横瀬地区社協の目標４

災害時に向けた地域住民の協力体制づくりを進めます。

いつ発生するか分からない災害については、平時からの備えが必要です。災害が起きた際に、安心感の持てる支援体制を作るために下記の取り組みを行います。

活動の方向性（具体的取り組み）

●自治区を超えた災害時の体制づくりの検討、実施
●緊急時に支援が必要になる方を把握・周知する
●地域内で災害においての必要な知識の周知を行う
●自治会、民生委員、自主防災会等の情報交換会の実施

策定までのプロセス

≪「話し合い」の場で出た意見≫

～現状・課題～

・災害が起きた時になかなか市は助けに来られない。自分たちで対応していく必要がある。
・上横瀬、下横瀬、鬼崎は、台風の際に非常に怖い思いをしたと思う。
・住宅団地は盛り土になっているので地震のときに危険。横瀬地区全体で災害が想定される。
・防災会の構成団体の役割がきちんと位置づけられていない。
・防災士と自治会の話し合いがあまりされていない。
・民生委員は対象者名簿を持っているが、今のままでは何をしたら良いのか分からない。
・防災マニュアルはあるが、実際にどう動けば良いのか分からない。具体的な動き方については形づくりが十分でない気がする。

～提案・対応策～

・自治区を超えた災害に向けた体制づくりをしたい。
・「過ごしやすい、安心、安全な地域」を目標に、計画を策定してはどうか。
・ボランティアの力を生かした支援が行えるのではないか。
・皆の意見を聞きながら、今の体制が良いのか、一歩踏み込んだ体制ができるかどうかも含めて議論したい。
・防災士会、民生委員、消防団を地区防災会の主要メンバーとして位置づけることを明確化した方が良いかもしれない。
・民生委員、自治会長、防災士が協力し、災害が起こった時の動きマニュアルを作りたい。人が変わっても動ける体制を作りたい。
・防災士と民生委員、自治会長の顔つなぎの場が必要。
・災害時に皆が集まれる場があれば良いと思う。

(2)計画策定メンバー

	団体名・所属	役職等	氏　名
1	横瀬地区社会福祉協議会	会長（緑が丘連合自治会長・地区公民館運営委員長・老人会長）	川口　澄雄
2	横瀬地区社会福祉協議会	地域福祉推進委員 （前地区社会福祉協議会会長・自治会長）	篠田　良行
3	横瀬地区社会福祉協議会	副会長（自治会連合会長・富士見が丘連合自治会長）	中浦　力
4	横瀬地区社会福祉協議会	副会長・事務局長（民生委員・児童委員協議会長）	高田　かず子
5	横瀬地区社会福祉協議会	副会長（地区ボランティア会　ひよっこ代表）	村上　いつえ
6	横瀬地区社会福祉協議会	副会長（体育協会長・大分市議会議員）	馬見塚　剛
7	横瀬地区社会福祉協議会	副会長（地区公民館長）	甲野　菅人
8	横瀬地区社会福祉協議会	理事（自治会長）	工藤　洋助
9	横瀬地区社会福祉協議会	理事（自治会長）	池辺　保宏
10	横瀬地区社会福祉協議会	理事（自治会長）	利光　正弘
11	横瀬地区社会福祉協議会	理事（自治会長）	那須　千鶴
12	横瀬地区社会福祉協議会	理事（富士見が丘連合自治会副会長）	内村　隆志
13	横瀬地区社会福祉協議会	理事（富士見が丘連合自治会副会長）	宮本　侑親
14	横瀬地区社会福祉協議会	理事（自治会長・地区公民館運営副委員長）	秦　一郎
15	横瀬地区社会福祉協議会	理事（民生委員・児童委員協議会副会長）	後藤　英雄
16	横瀬地区社会福祉協議会	理事（民生委員・児童委員協議会前副会長）	岩尾　俊信
17	横瀬地区社会福祉協議会	理事（地区ボランティア会　ひよっこ）	松木　マス美
18	横瀬地区社会福祉協議会	理事（老人会長）	楠元　勝次郎
19	横瀬地区社会福祉協議会	会計（民生委員・児童委員）	大塚　恭子
20	横瀬地区社会福祉協議会	事務局次長（民生委員・児童委員）	椎原　美登里

(3)実施経過

お忙しい中、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。
今後とも、横瀬地区の地域福祉の発展のために、ご協力いただきますようお願い致します。

開催日	内容
令和4年1月27日（木）13：30～	取組説明（理事会）
令和4年3月～令和4年4月	調査対象者整備活動 （ふれあい台帳対象者等整備）
令和4年4月8日（金）9：30～	事務局会議
令和4年5月21日（土）9：30～	調査員説明会
令和4年5月21日（土）～令和4年7月16日（土）	調査実施期間
令和4年6月16日（木）13：30～	事務局会議
令和4年6月24日（金）10：00～	計画策定会議
令和4年8月27日（土）10：00～	事務局会議
令和4年9月22日（木）13：30～	第1回話し合い、実態調査結果報告（事務局）
令和4年10月15日（土）10：00～	実態調査結果報告(民生委員・児童委員協議会)
令和5年1月27日（金）13：00～	第2回話し合い
令和5年2月17日（金）13：30～	第3回話し合い
令和5年3月8日（水）13：30～	計画案の策定

第5章　資料編

(1)実態調査票

あなたご自身についておうかがいします。

【問１】あなたの性別を教えてください。

１）男性　　２）女性

【問２】あなたの年齢を教えてください。

１）50 歳未満　　２）50～59 歳　　３）60～64 歳　　４）65～69 歳
５）70～74 歳　　６）75～79 歳　　７）80～84 歳　　８）85 歳以上

【問３】居住形態を教えてください。

１）一軒家（一戸建て）・持ち家　　２）一軒家（一戸建て）・借家
３）集合住宅・持ち家　　４）集合住宅・借家　　５）公営住宅
６）その他（　　）

【問４】家族構成を教えてください。

１）ひとり暮らし　　２）夫婦のみ　　３）子どもと同居　　４）兄弟・親族と同居
５）その他（　　）

【問５】今のお住まいに住んでからの居住年数を教えてください。

１）１年未満　　２）１年以上～３年未満　　３）３年以上～５年未満
４）５年以上～10 年未満　　５）１０年以上～20 年未満　　６）２０年以上

【問６】あなたの健康状態はどうですか。（○はいくつでも）

１）健康である　　２）通院している　　３）通院していないが、体調がすぐれない
４）歩くのが不自由　　５）寝たきり状態
６）その他（　　）

日常の生活についてお尋ねします。

【問７】日常生活のなかで、困ったことがあれば教えてください。（○はいくつでも）

１）炊事　　２）掃除　　３）洗濯　　４）買い物　　５）ゴミ出し
６）布団干し　　７）草とり　　８）電球の交換　　９）家具の移動
10）その他（　　）
11）特になし

【問８】その他に、困ったことがあれば教えてください。（○はいくつでも）

１）医療や介護のこと　　２）経済的なこと　　３）地域の人とのつきあい
４）その他（　　）　　５）困っていることはない

【問９】困った時に相談する相手はいますか。（○はいくつでも）

１）家族・親族　　２）友人・知人　　３）自治会長　　４）民生委員
５）ふれあい協力者　　６）専門家（医師、地域包括支援センターなど）
７）その他（　　）　　８）相談できる人はいない

【問１０】困りごとについて、自分で出来なくなったときに、ご近所の人などからお手伝いに力を借りたいと思いますか。

１）誰でもいいから力を借りたい
２）ご近所などの顔見知りの人から力を借りたい
３）顔見知りではない人から力を借りたい
４）誰からも力を借りたくない
５）今は分からない

日常的な外出についてお尋ねします

【問１１】どのような理由で外にお出かけになることが多いですか。（○はいくつでも）

１）買い物　２）病院　３）散歩　４）友達と会う　５）別居の家族や子どもと会う
６）サロンや老人会など、地域の集まり　７）趣味　８）その他（　　）

【問１２】お出かけの頻度はどの位ですか。

１）ほとんど外出しない　２）週１回　３）週２～４回　４）週５回以上

【問１３】以下の理由のため、外出を控えることがあれば教えてください。（○はいくつでも）

１）病気、障がい　２）足腰の痛み　３）トイレの心配　４）気分が乗らない
５）外での楽しみがない　６）移動手段がない　７）その他（　　）
８）外出を控えていない

【問１４】外出する際の主な移動手段は何ですか。（○はいくつでも）

１）徒歩　２）車いす　３）自転車　４）バイク
５）自家用車（自分で運転）　６）自動車（人に乗せてもらう）
７）公共交通機関（バス、電車）　８）ふれあい交通　９）タクシー
10）その他（　　）

ご近所付き合いについてお尋ねします。

【問１５】あなたは、日頃、一番親しいご近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

１）何か困ったときに助けてくれる人がいる　２）困ったときに相談する人がいる
３）互いに訪問しあう人はいる　４）立ち話をする人はいる
５）顔が合えばあいさつを交わす人はいる　６）ほとんど付き合いがない

【問１６】日常でのご近所付き合いについて、どのようにお考えですか。

１）人と関わることは必要だと思うし、している
２）人と関わることは必要だと思うが、できていない
３）あまり人と関わりたくないと思っている
４）その他（　　）

【問１７】あなたの住んでいる地域にこれから必要だと思われる「住民同士がつながる場」とはどんな場だと思いますか。（○はいくつでも）

１）地域の人が気軽にお茶のみなどで寄れる場　２）困ったことを相談できる場
３）高齢者が集まって運動や体操が出来る場
４）地域のために必要なボランティア活動を考える場
５）子どもと大人がふれあえる世代間の交流の場
６）子育て中の親子が集える場　７）退職後の男性が集える場
８）その他（　　）

【問１８】災害時に地域住民が助け合って避難するためには、日頃から地域ぐるみでどのような準備をすればよいと思いますか。（○はいくつでも）

１）地域住民同士が活発に交流する
２）地域で防災情報や災害情報の連絡体制をつくる
３）地域で避難訓練を実施する
４）地域の避難場所を把握しておく
５）高齢者など、地域で避難支援を必要とする人を把握し、情報を共有しておく
６）避難をあきらめている
７）その他（　　）
８）わからない

住民同士の「ふれあい活動（見守り、声かけ活動）」についてお尋ねします。

【問１９】「ふれあい活動（見守り、声かけ活動）」で、感じることを教えてください。（○はいくつでも）

１）見守られているという安心感がある
２）何かあったときに相談できる相手がいるという安心感がある
３）実際に困った際に助けてもらったことがある
４）支援していただいて申し訳ないと思うときがある
５）いつも見られているのではないかと思うときがある
６）役立っていると思わない
７）その他（　　）

【問２０】あなたは地域の行事や活動に協力してみたいと思いますか。

１）既に協力している
２）可能な範囲で協力をしてみたい
３）協力したいとは思わない
４）その他（　　）

【問２１】最後に、感想や意見があればご自由にお書きください。

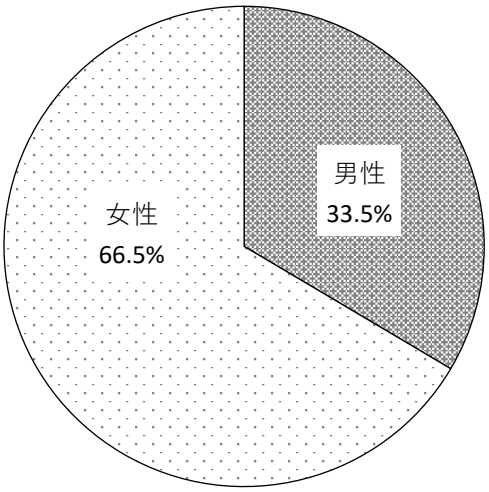
調査へご協力いただき、ありがとうございました。

(2)実態調査集計結果

問 1	あなたの性別を教えてください。

(N=385)

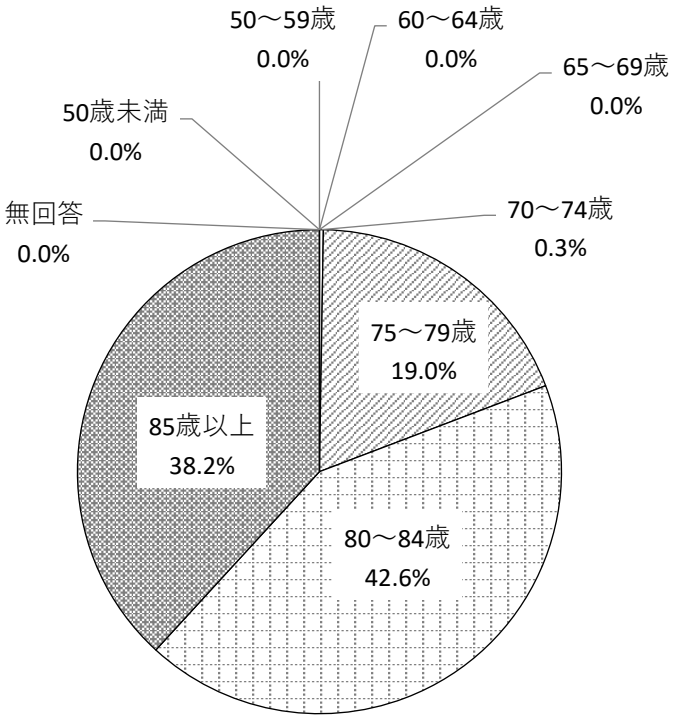
	回答数	割合
男性	129	33.5%
女性	256	66.5%



問 2	あなたの年齢を教えてください。

(N=385)

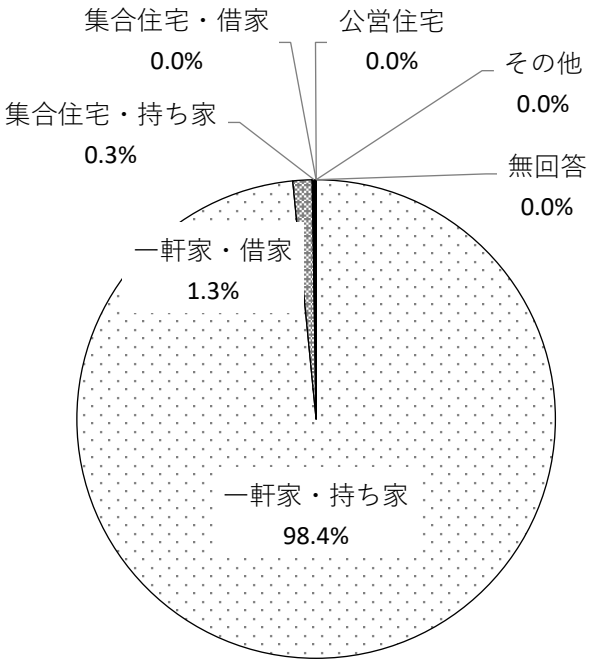
	回答数	割合
50歳未満	0	0.0%
50～59歳	0	0.0%
60～64歳	0	0.0%
65～69歳	0	0.0%
70～74歳	1	0.3%
75～79歳	73	19.0%
80～84歳	164	42.6%
85歳以上	147	38.2%
無回答	0	0.0%



問 3	居住形態を教えてください。

（N=385）

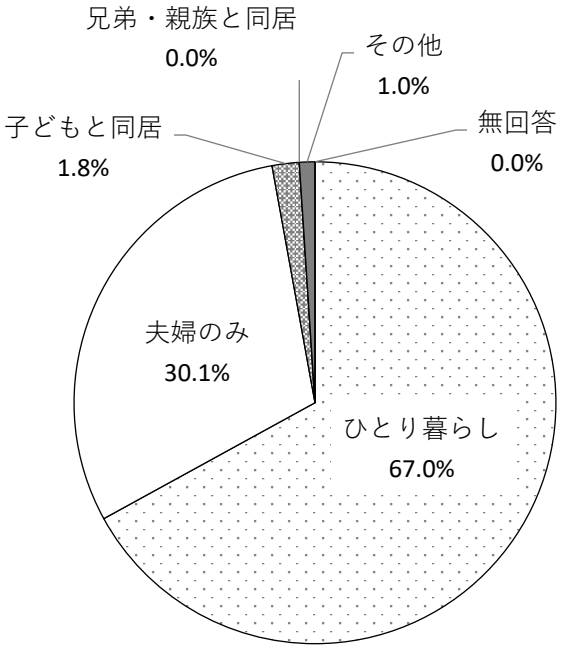
	回答数	割合
一軒家・持ち家	379	98.4%
一軒家・借家	5	1.3%
集合住宅・持ち家	1	0.3%
集合住宅・借家	0	0.0%
公営住宅	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%



問 4	家族構成を教えてください。

（N=385）

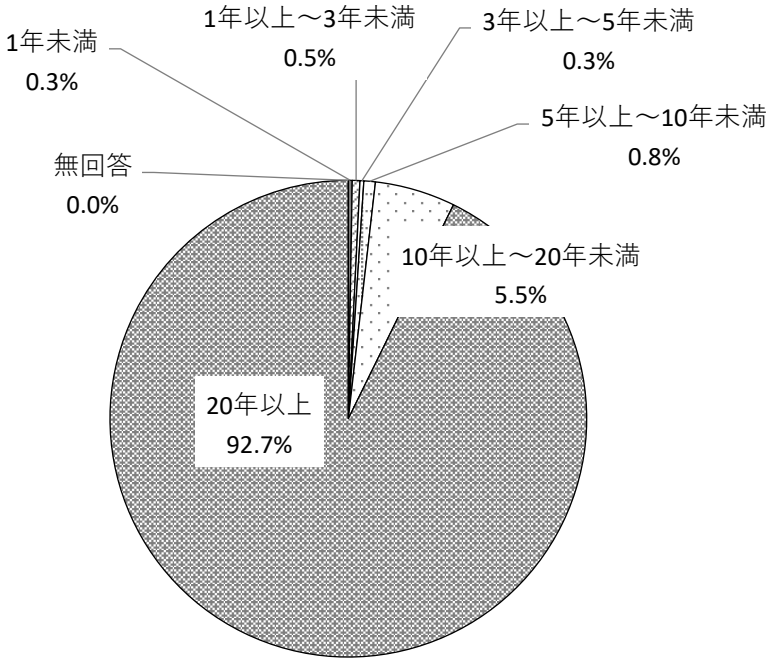
	回答数	割合
ひとり暮らし	258	67.0%
夫婦のみ	116	30.1%
子どもと同居	7	1.8%
兄弟・親族と同居	0	0.0%
その他	4	1.0%
無回答	0	0.0%



問 5	今のお住まいに住んでからの居住年数を教えてください。

（N=385）

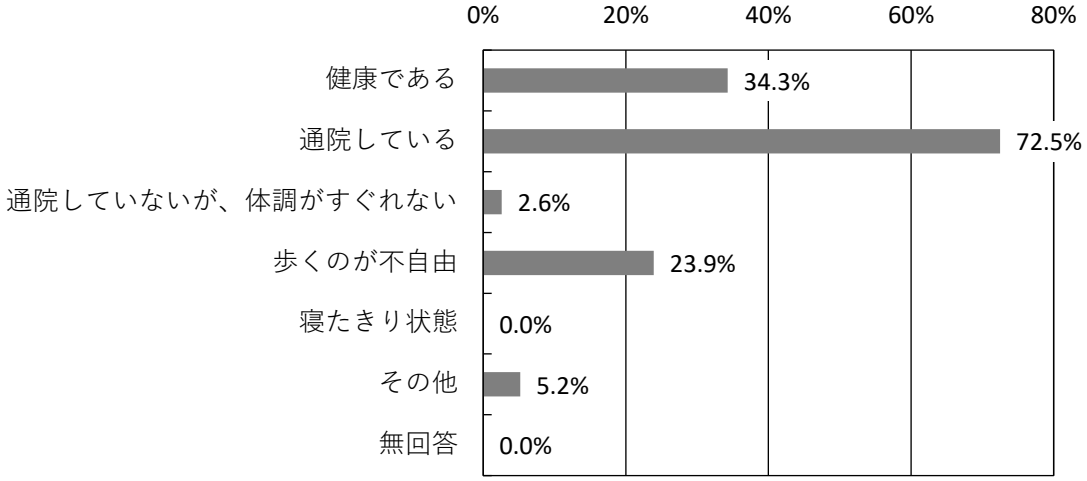
	回答数	割合
1年未満	1	0.3%
1年以上～3年未満	2	0.5%
3年以上～5年未満	1	0.3%
5年以上～10年未満	3	0.8%
10年以上～20年未満	21	5.5%
20年以上	357	92.7%
無回答	0	0.0%



問 6	あなたの健康状態はどうですか。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
健康である	132	34.3%
通院している	279	72.5%
通院していないが、体調がすぐれない	10	2.6%
歩くのが不自由	92	23.9%
寝たきり状態	0	0.0%
その他	20	5.2%
無回答	0	0.0%



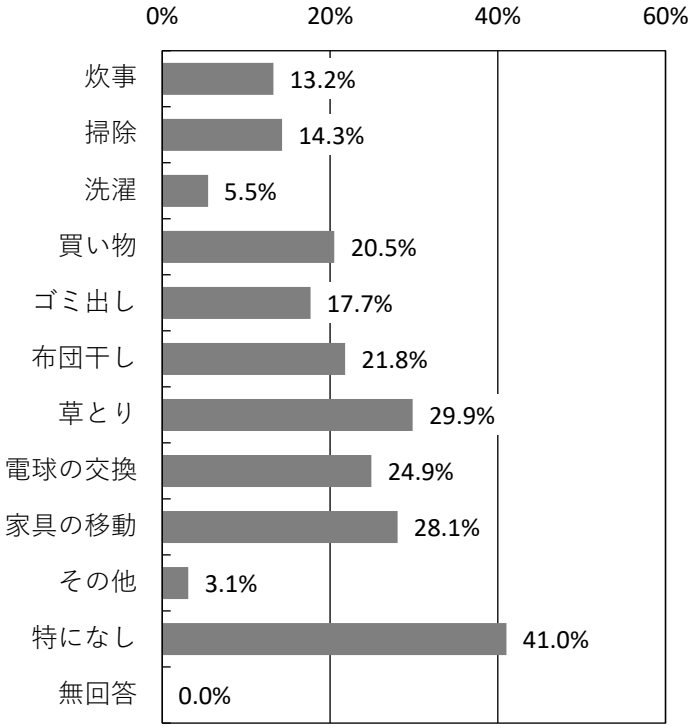
※複数回答

		サンプル数	健康である	通院している	通院していないが、体調がすぐれない	歩くのが不自由	寝たきり状態	その他	無回答
全　体		385	34.3%	72.5%	2.6%	23.9%	－	5.2%	－
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	100.0%	－	－	－	－	－	－
	75～79歳	73	41.1%	69.9%	1.4%	9.6%	－	2.7%	－
	80～84歳	164	32.3%	73.2%	2.4%	24.4%	－	5.5%	－
	85歳以上	147	32.7%	73.5%	3.4%	30.6%	－	6.1%	－

問 7	日常生活のなかで、困ったことがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
炊事	51	13.2%
掃除	55	14.3%
洗濯	21	5.5%
買い物	79	20.5%
ゴミ出し	68	17.7%
布団干し	84	21.8%
草とり	115	29.9%
電球の交換	96	24.9%
家具の移動	108	28.1%
その他	12	3.1%
特になし	158	41.0%
無回答	0	0.0%



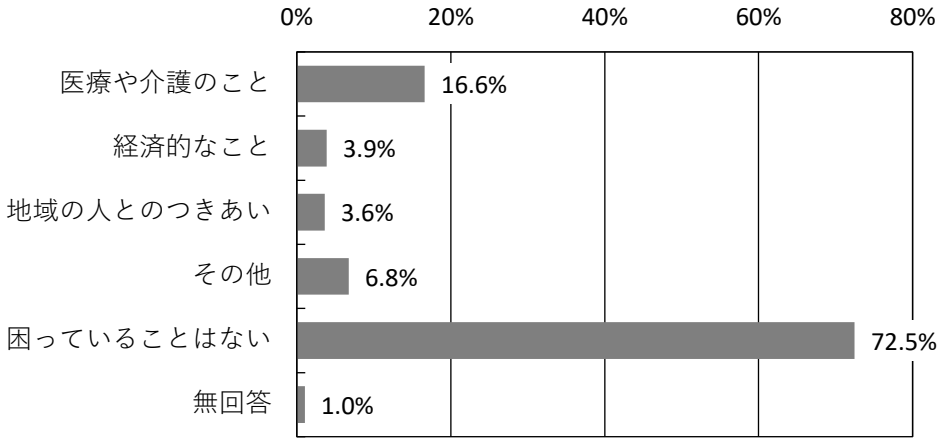
※複数回答

		サンプル数	炊事	掃除	洗濯	買い物	ゴミ出し	布団干し	草とり	電球の交換	家具の移動	その他	特になし	無回答
全　体		385	13.2%	14.3%	5.5%	20.5%	17.7%	21.8%	29.9%	24.9%	28.1%	3.1%	41.0%	－
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0%	－
	75～79歳	73	5.5%	1.4%	1.4%	5.5%	9.6%	6.8%	15.1%	16.4%	23.3%	2.7%	58.9%	－
	80～84歳	164	13.4%	12.2%	4.3%	17.1%	14.0%	20.7%	28.0%	25.6%	28.0%	3.0%	42.1%	－
	85歳以上	147	17.0%	23.1%	8.8%	32.0%	25.9%	30.6%	39.5%	28.6%	30.6%	3.4%	30.6%	－

問 8	その他に、困ったことがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

（N=385）

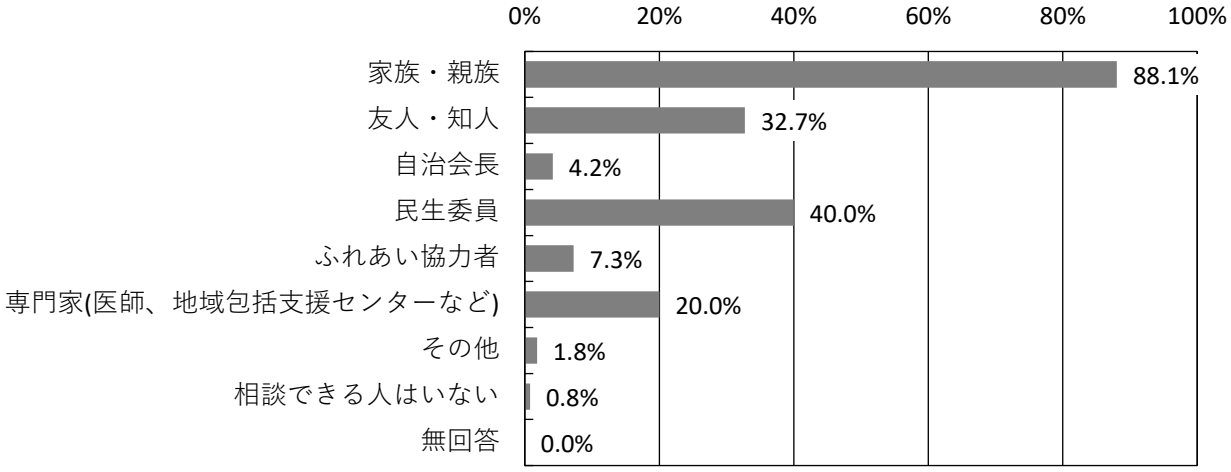
	回答数	割合
医療や介護のこと	64	16.6%
経済的なこと	15	3.9%
地域の人とのつきあい	14	3.6%
その他	26	6.8%
困っていることはない	279	72.5%
無回答	4	1.0%



問 9	困った時に相談する相手はいますか。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
家族・親族	339	88.1%
友人・知人	126	32.7%
自治会長	16	4.2%
民生委員	154	40.0%
ふれあい協力者	28	7.3%
専門家(医師、地域包括支援センターなど)	77	20.0%
その他	7	1.8%
相談できる人はいない	3	0.8%
無回答	0	0.0%



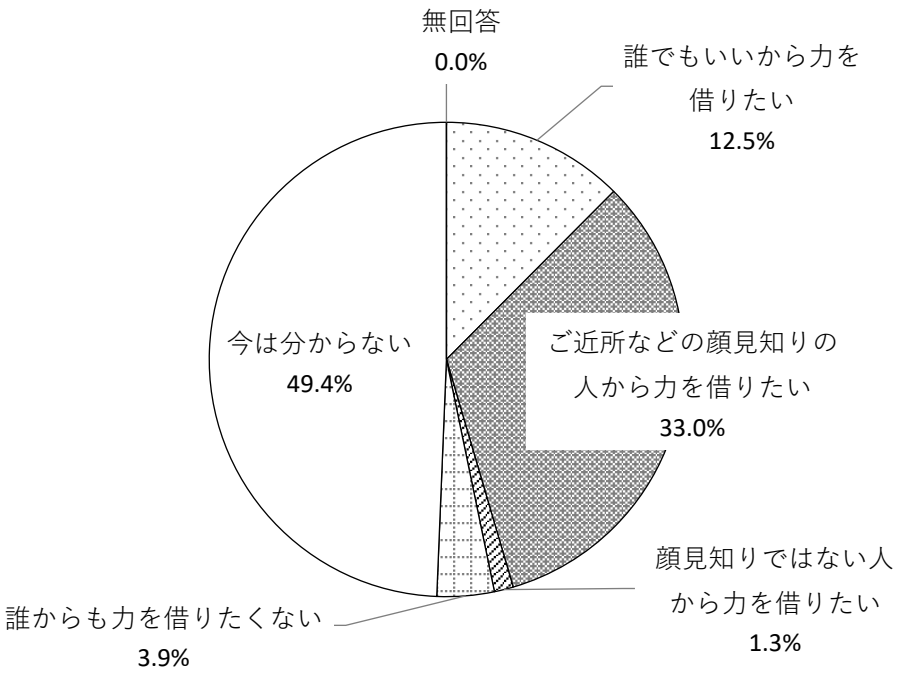
※複数回数

		サンプル数	家族・親族	友人・知人	自治会長	民生委員	ふれあい協力者	専門家（医師、地域包括支援センターなど）	その他	相談できる人はいない	無回答
全　体		385	88.1%	32.7%	4.2%	40.0%	7.3%	20.0%	1.8%	0.8%	－
性別	男性	129	82.9%	20.2%	7.0%	38.8%	5.4%	20.2%	1.6%	0.8%	－
	女性	256	90.6%	39.1%	2.7%	40.6%	8.2%	19.9%	2.0%	0.8%	－

問 10	困りごとについて、自分で出来なくなったときに、ご近所の人などからお手伝いに力を借りたいと思いますか。

（N=385）

	回答数	割合
誰でもいいから力を借りたい	48	12.5%
ご近所などの顔見知りの人から力を借りたい	127	33.0%
顔見知りではない人から力を借りたい	5	1.3%
誰からも力を借りたくない	15	3.9%
今は分からない	190	49.4%
無回答	0	0.0%

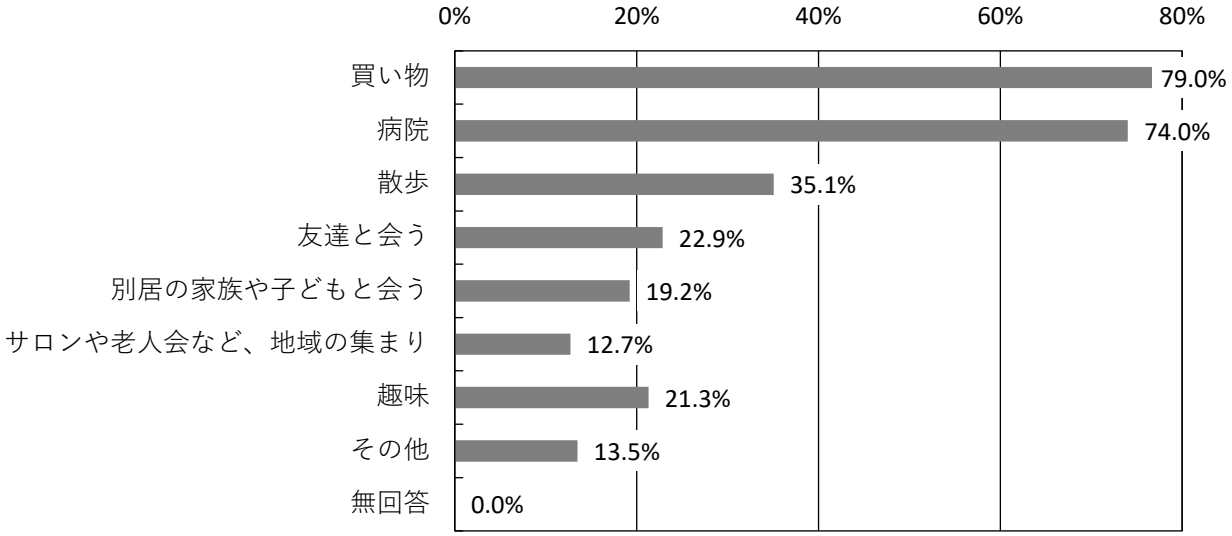


		サンプル数	誰でもいいから力を借りたい	ご近所などの顔見知りの人から力を借りたい	顔見知りではない人から力を借りたい	誰からも力を借りたくない	今は分からない	無回答
全　体		385	12.5%	33.0%	1.3%	3.9%	49.4%	－
性別	男性	129	14.0%	30.2%	0.8%	3.9%	51.2%	－
	女性	256	11.7%	34.4%	1.6%	3.9%	48.4%	－

問 11	どのような理由で外にお出かけになることが多いですか。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
買い物	304	79.0%
病院	285	74.0%
散歩	135	35.1%
友達と会う	88	22.9%
別居の家族や子どもと会う	74	19.2%
サロンや老人会など、地域の集まり	49	12.7%
趣味	82	21.3%
その他	52	13.5%
無回答	0	0.0%



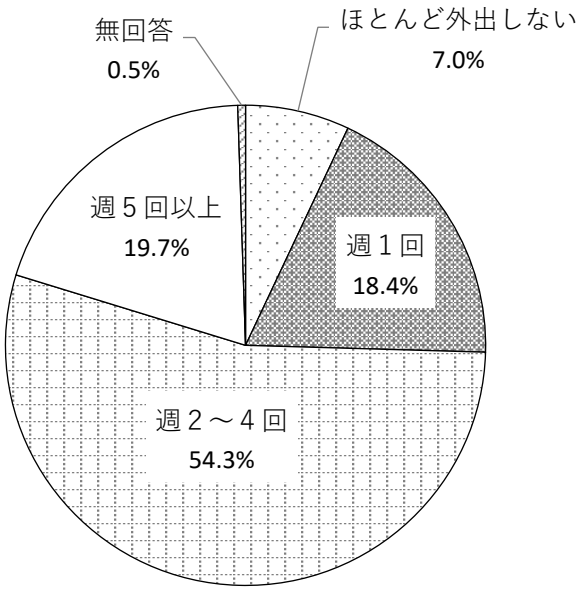
※複数回答

		サンプル数	買い物	病院	散歩	友達と会う	別居の家族や子どもと会う	サロンや老人会など、地域の集まり	趣味	その他	無回答
全　体		385	79.0%	74.0%	35.1%	22.9%	19.2%	12.7%	21.3%	13.5%	－
性別	男性	129	78.3%	69.8%	39.5%	14.0%	16.3%	7.8%	24.8%	17.8%	－
	女性	256	79.3%	76.2%	32.8%	27.3%	20.7%	15.2%	19.5%	11.3%	－
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	100.0%	－	－	100.0%	100.0%	－	100.0%	－	－
	75～79歳	73	90.4%	67.1%	46.6%	24.7%	21.9%	9.6%	30.1%	11.0%	－
	80～84歳	164	80.5%	75.0%	34.8%	28.0%	18.9%	12.2%	22.6%	14.0%	－
	85歳以上	147	71.4%	76.9%	29.9%	15.6%	17.7%	15.0%	15.0%	14.3%	－

問 12	お出かけの頻度はどの位ですか。

（N=385）

	回答数	割合
ほとんど外出しない	27	7.0%
週１回	71	18.4%
週２～４回	209	54.3%
週５回以上	76	19.7%
無回答	2	0.5%

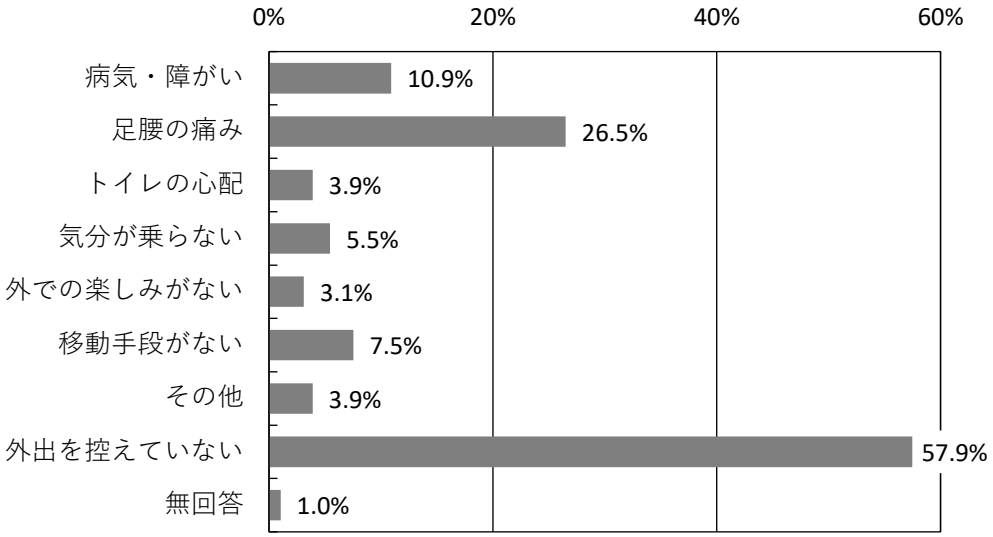


		サンプル数	ほとんど外出しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答
全　体		385	7.0%	18.4%	54.3%	19.7%	0.5%
性別	男性	129	7.0%	13.2%	51.9%	27.9%	－
	女性	256	7.0%	21.1%	55.5%	15.6%	0.8%

問 13	以下の理由のため、外出を控えることがあれば教えてください。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
病気・障がい	42	10.9%
足腰の痛み	102	26.5%
トイレの心配	15	3.9%
気分が乗らない	21	5.5%
外での楽しみがない	12	3.1%
移動手段がない	29	7.5%
その他	15	3.9%
外出を控えていない	223	57.9%
無回答	4	1.0%



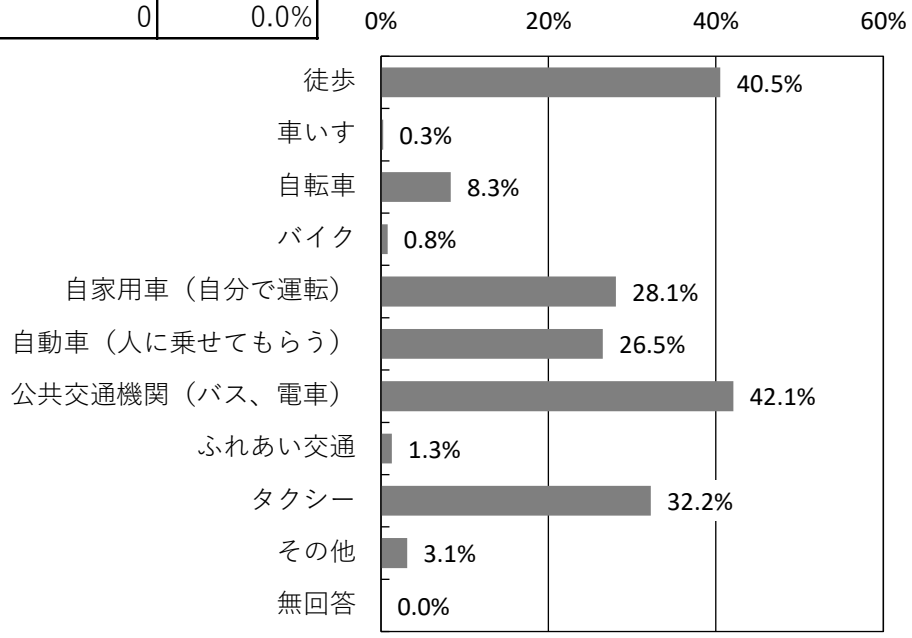
※複数回答

		サンプル数	病気、障がい	足腰の痛み	トイレの心配	気分が乗らない	外での楽しみがない	移動手段がない	その他	外出を控えていない	無回答
全　体		385	10.9%	26.5%	3.9%	5.5%	3.1%	7.5%	3.9%	57.9%	1.0%
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	－	－	－	－	－	－	－	100.0%	－
	75～79歳	73	4.1%	11.0%	－	2.7%	2.7%	5.5%	－	80.8%	1.4%
	80～84歳	164	10.4%	27.4%	3.7%	6.1%	3.7%	4.3%	5.5%	55.5%	1.8%
	85歳以上	147	15.0%	33.3%	6.1%	6.1%	2.7%	12.2%	4.1%	49.0%	－

問 14	外出する際の主な移動手段は何ですか。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
徒歩	156	40.5%
車いす	1	0.3%
自転車	32	8.3%
バイク	3	0.8%
自家用車（自分で運転）	108	28.1%
自動車（人に乗せてもらう）	102	26.5%
公共交通機関（バス、電車）	162	42.1%
ふれあい交通	5	1.3%
タクシー	124	32.2%
その他	12	3.1%
無回答	0	0.0%



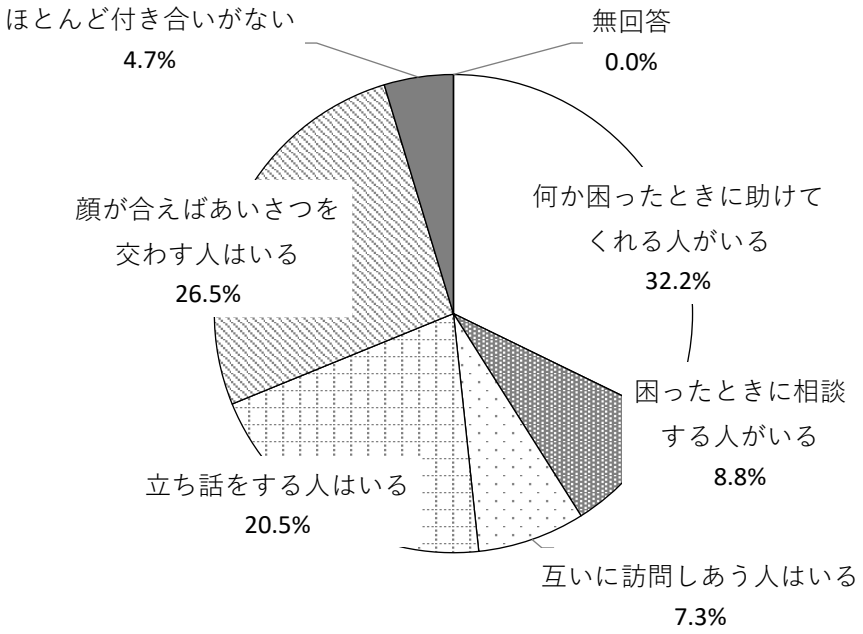
※複数回答

		サンプル数	徒歩	車いす	自転車	バイク	自家用車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	公共交通機関（バス、電車）	ふれあい交通	タクシー	その他	無回答
全　体		385	40.5%	0.3%	8.3%	0.8%	28.1%	26.5%	42.1%	1.3%	32.2%	3.1%	－
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	100.0%	－	100.0%	－	100.0%	－	－	－	－	－	－
	75～79歳	73	43.8%	－	9.6%	－	49.3%	13.7%	46.6%	1.4%	15.1%	－	－
	80～84歳	164	38.4%	0.6%	7.9%	1.2%	30.5%	26.8%	44.5%	－	28.0%	4.3%	－
	85歳以上	147	40.8%	－	7.5%	0.7%	14.3%	32.7%	37.4%	2.7%	45.6%	3.4%	－

問 15	あなたは、日頃、一番親しいご近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。

（N=385）

	回答数	割合
何か困ったときに助けてくれる人がいる	124	32.2%
困ったときに相談する人がいる	34	8.8%
互いに訪問しあう人はいる	28	7.3%
立ち話をする人はいる	79	20.5%
顔が合えばあいさつを交わす人はいる	102	26.5%
ほとんど付き合いがない	18	4.7%
無回答	0	0.0%

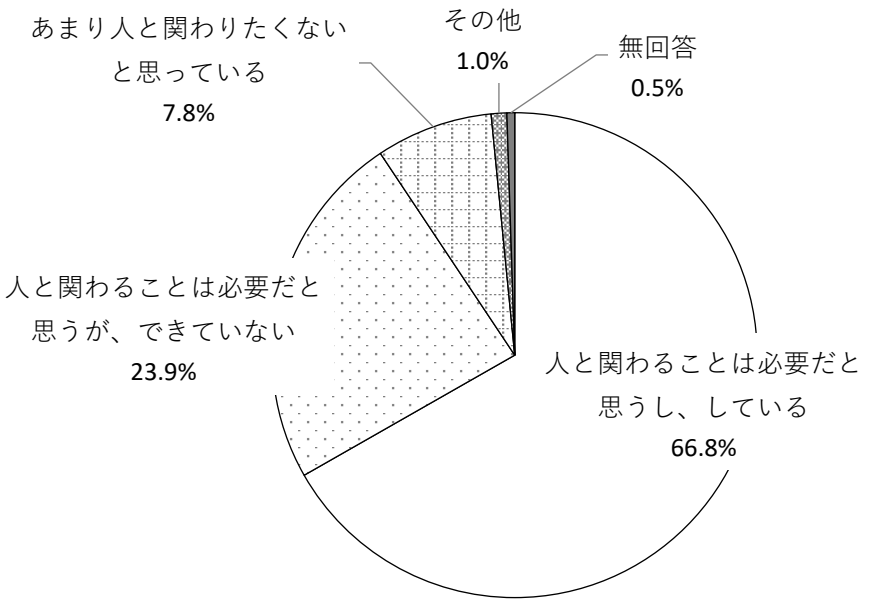


		サンプル数	何か困ったときに助けてくれる人がいる	困ったときに相談する人がいる	互いに訪問しあう人はいる	立ち話をする人はいる	顔が合えばあいさつを交わす人はいる	ほとんど付き合いがない	無回答
全　体		385	32.2%	8.8%	7.3%	20.5%	26.5%	4.7%	−
性別	男性	129	17.8%	7.0%	6.2%	19.4%	42.6%	7.0%	−
	女性	256	39.5%	9.8%	7.8%	21.1%	18.4%	3.5%	−

問 16	日常でのご近所付き合いについて、どのようにお考えですか。

（N=385）

	回答数	割合
人と関わることは必要だと思うし、している	257	66.8%
人と関わることは必要だと思うが、できていない	92	23.9%
あまり人と関わりたくないと思っている	30	7.8%
その他	4	1.0%
無回答	2	0.5%

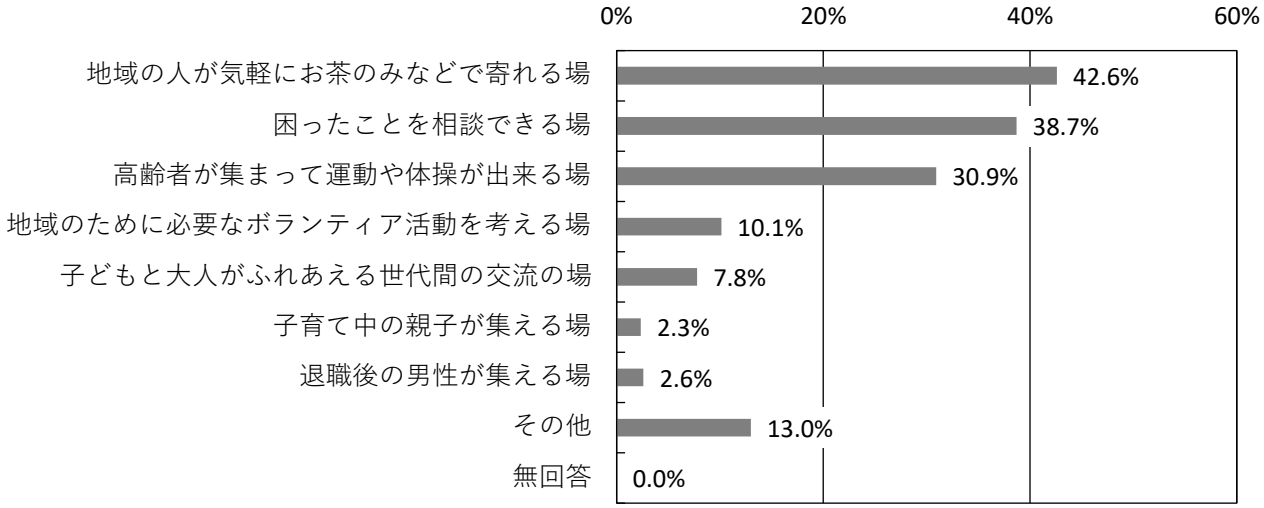


		サンプル数	人と関わることは必要だと思うし、している	人と関わることは必要だと思うが、できていない	あまり人と関わりたくないと思っている	その他	無回答
全　体		385	66.8%	23.9%	7.8%	1.0%	0.5%
性別	男性	129	50.4%	38.8%	8.5%	1.6%	0.8%
	女性	256	75.0%	16.4%	7.4%	0.8%	0.4%

問 17	あなたの住んでいる地域にこれから必要だと思われる「住民同士がつながる場」とはどんな場だと思いますか。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
地域の人が気軽にお茶のみなどで寄れる場	164	42.6%
困ったことを相談できる場	149	38.7%
高齢者が集まって運動や体操が出来る場	119	30.9%
地域のために必要なボランティア活動を考える場	39	10.1%
子どもと大人がふれあえる世代間の交流の場	30	7.8%
子育て中の親子が集える場	9	2.3%
退職後の男性が集える場	10	2.6%
その他	50	13.0%
無回答	0	0.0%



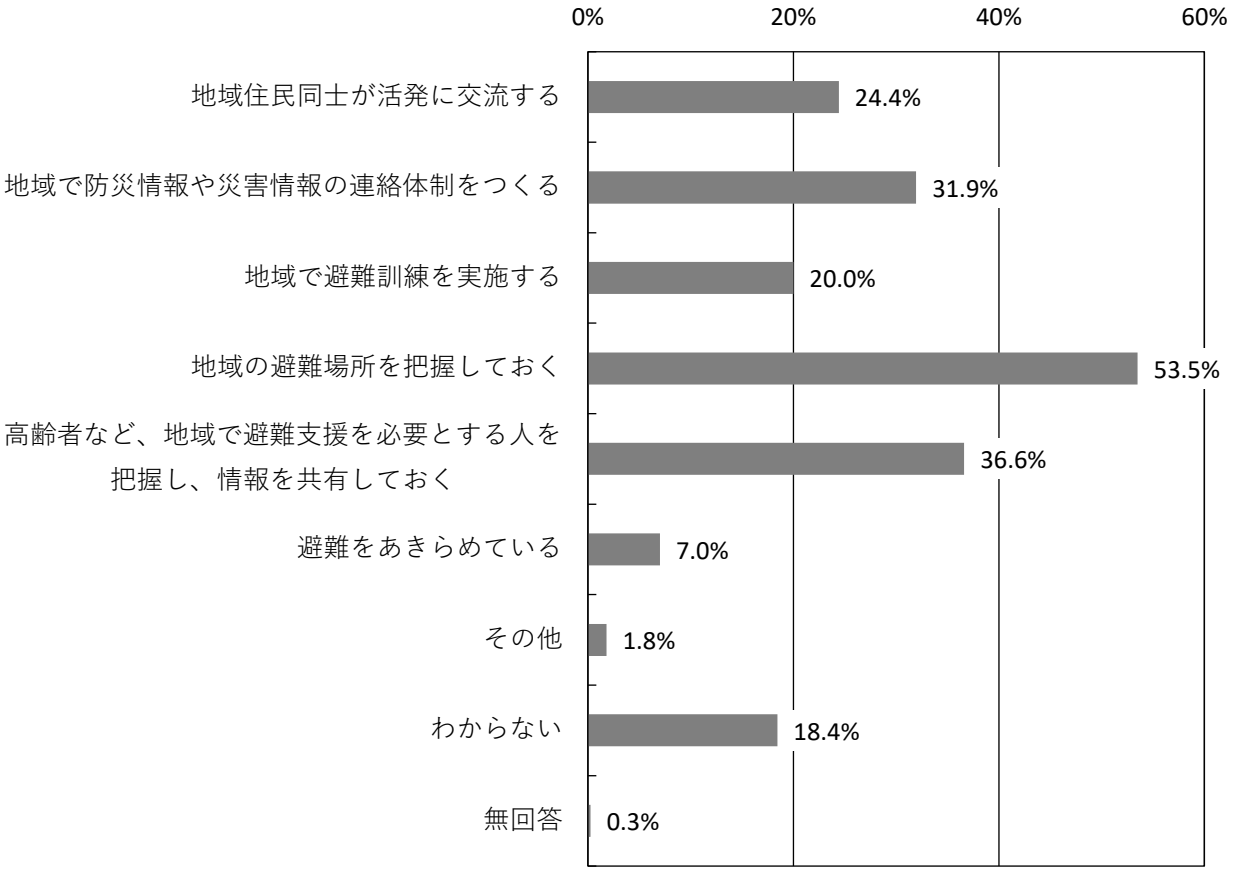
※複数回答

		サンプル数	地域の人が気軽にお茶のみなどで寄れる場	困ったことを相談できる場	高齢者が集まって運動や体操が出来る場	地域のために必要なボランティア活動を考える場	子どもと大人がふれあえる世代間の交流の場	子育て中の親子が集える場	退職後の男性が集える場	その他	無回答
全　体		385	42.6%	38.7%	30.9%	10.1%	7.8%	2.3%	2.6%	13.0%	－
性別	男性	129	38.8%	43.4%	26.4%	12.4%	12.4%	3.9%	6.2%	14.7%	－
	女性	256	44.5%	36.3%	33.2%	9.0%	5.5%	1.6%	0.8%	12.1%	－
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－	－
	75～79歳	73	45.2%	35.6%	34.2%	19.2%	8.2%	2.7%	4.1%	13.7%	－
	80～84歳	164	42.1%	34.1%	28.7%	7.3%	8.5%	1.2%	2.4%	15.2%	－
	85歳以上	147	41.5%	45.6%	32.0%	8.8%	6.8%	3.4%	2.0%	10.2%	－

問 18	災害時に地域住民が助け合って避難するためには、日頃から地域ぐるみでどのような準備をすればよいと思いますか。（〇はいくつでも）

（N=385）

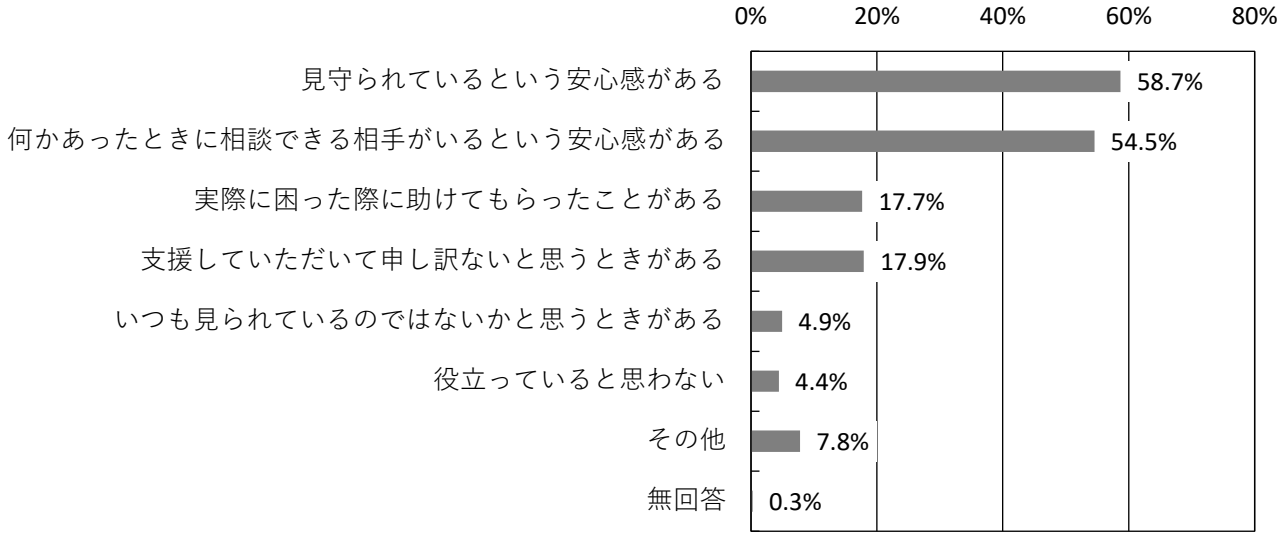
	回答数	割合
地域住民同士が活発に交流する	94	24.4%
地域で防災情報や災害情報の連絡体制をつくる	123	31.9%
地域で避難訓練を実施する	77	20.0%
地域の避難場所を把握しておく	206	53.5%
高齢者など、地域で避難支援を必要とする人を把握し、情報を共有しておく	141	36.6%
避難をあきらめている	27	7.0%
その他	7	1.8%
わからない	71	18.4%
無回答	1	0.3%



問 19	「ふれあい活動（見守り、声かけ活動）」で、感じることを教えてください。（〇はいくつでも）

（N=385）

	回答数	割合
見守られているという安心感がある	226	58.7%
何かあったときに相談できる相手がいるという安心感がある	210	54.5%
実際に困った際に助けてもらったことがある	68	17.7%
支援していただいて申し訳ないと思うときがある	69	17.9%
いつも見られているのではないかと思うときがある	19	4.9%
役立っていると思わない	17	4.4%
その他	30	7.8%
無回答	1	0.3%



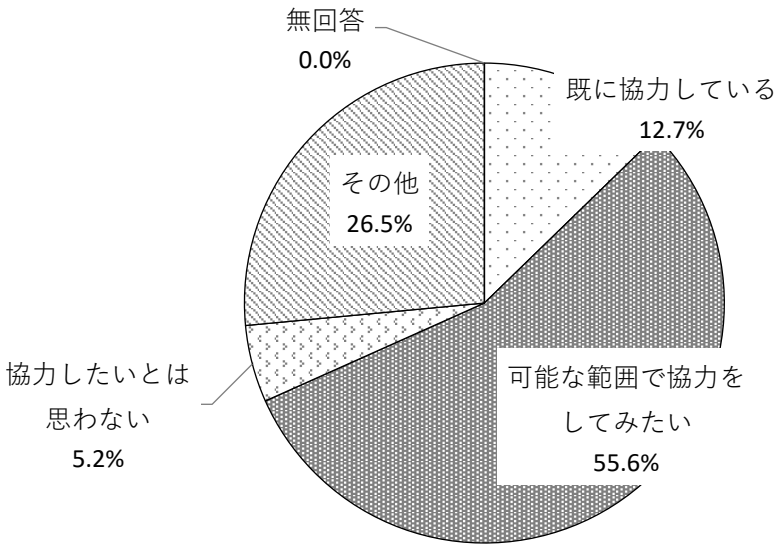
※複数回答

		サンプル数	見守られているという安心感がある	何かあったときに相談できる相手がいるという安心感がある	実際に困った際に助けてもらったことがある	支援をしていただいて申し訳ないと思うときがある	いつも見られているのではないかと思うときがある	役立っていると思わない	その他	無回答
全　体		385	58.7%	54.5%	17.7%	17.9%	4.9%	4.4%	7.8%	0.3%
年齢別	50歳未満	0	－	－	－	－	－	－	－	－
	50～59歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－
	60～64歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－
	65～69歳	0	－	－	－	－	－	－	－	－
	70～74歳	1	100.0%	－	－	－	－	－	－	－
	75～79歳	73	60.3%	50.7%	16.4%	17.8%	1.4%	1.4%	9.6%	1.4%
	80～84歳	164	62.8%	53.7%	15.9%	18.3%	2.4%	4.9%	8.5%	－
	85歳以上	147	53.1%	57.8%	20.4%	17.7%	9.5%	5.4%	6.1%	－

問 20	あなたは地域の行事や活動に協力してみたいと思いますか。

（N=385）

	回答数	割合
既に協力している	49	12.7%
可能な範囲で協力をしてみたい	214	55.6%
協力したいとは思わない	20	5.2%
その他	102	26.5%
無回答	0	0.0%



横瀬地区社会福祉協議会　地域福祉活動計画

発　行　日　　令和５年３月
発　　行　　横瀬地区社会福祉協議会
大分市社会福祉協議会　地域福祉課　地域福祉係
〒８７０－０８３９
大分市金池南１丁目５番１号　J：COM ホルトホール大分４階
℡　０９７－５４７－７４１８